山梨県韮崎市

Gebaki Site

下馬城遺跡

個人住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書

2003

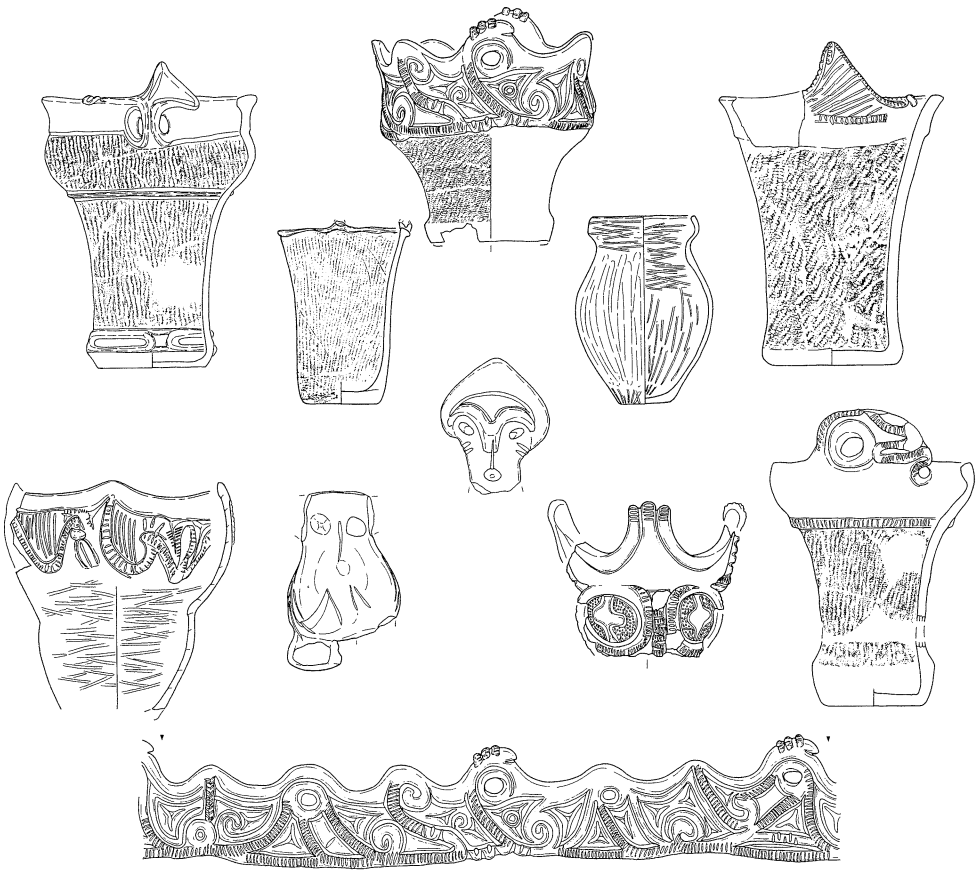
韮崎市教育委員会

山梨県韮崎市

Gebaki　Site

下馬城遺跡

個人住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書



2003

韮崎市教育委員会

序　　文

韮崎市内では現在200遺跡を越す埋蔵文化財包蔵地が確認されています。下馬城遺跡もその一つであります。本遺跡地内での発掘調査はこれがはじめてであり、遺跡内容を具体的に知ることができました。

当地域の歴史の紐解きに本書がお役に立つことを願い、今回の調査に甚大なるご理解とご協力をいただきました地元の皆様方へ、この場を借りてお礼を申し上げる次第であります。

平成15年3月28日

韮崎市教育委員会

教育長　輿　石　　薫

例　　言

1　本書は、山梨県韮崎市大草町下条中割字下馬城に所在する下馬城遺跡の個人住宅建設に伴う発掘調査報告書である。
2　発掘調査は、平成13年３月28日から４月21日まで実施した。整理作業は平成14年度に実施した。
3　本書の執筆は第３章第２節内の石器については角張淳一、その他を閏間俊明がおこない、編集は閏間がおこなった。
4　発掘調査ならびに報告書作成にあたり、多くの方々からご指導・ご協力・ご鞭撻を頂いた。一々ご芳名を挙げないが厚くお礼を申し上げる次第である。
5　発掘調査・整理業務により出土並びに作成された遺物及び資料等は、韮崎市教育委員会において保管している。

調　査　組　織

1　調査主体　韮崎市教育委員会教育課生涯学習推進室

教育長	輿石　薫	リーダー	山下孝司（学術文化財係）
課　長	新藤　稔（前任　真壁静雄）	主　事	閏間俊明（　〃　）
室　長	長野栄太	非常勤	秋山圭子（　〃　）

2　調査担当　山下孝司（現地）・閏間俊明（整理）
3　調査参加者　秋山　東・山主直子・佐久間昭三・佐久間美里・内田志津子・永瀬史人・降矢哲男
阿部由美子・石原ひろみ・上野理江・内山こずえ・小野初美・木内純子

凡　　例

1　遺構・遺物の縮尺は各図に示したとおりである。
2　遺物実測図番号、観察表番号及び本文中の番号は一致する。
3　遺構の方位は各図に示したとおりであり、北は磁北によるものである。
4　標高は韮崎市大草町下條中割字丸山東地内に所在する基準点（391.500m）から光波測定器により移動したものである。

目　　次

序　　文
例　　言
調 査 組 織
凡　　例
目　　次

第１章　調査経過 …… 1
第２章　遺跡の環境 …… 1
　第１節　地理的環境
　第２節　歴史的環境
第３章　遺構と遺物 …… 2
　第１節　遺構
　第２節　遺物

第１章　調査経過

韮崎市大草町下条中割40番地の個人住宅建設にかかり、地権者より埋蔵文化財の有無確認の依頼が平成12年３月21日に出された。当該場所は、平成11年度において発掘調査を実施した下馬城遺跡（「下馬城遺跡」北巨摩市町村文化財担当者会『八ヶ岳考古』平成11年度年報）の隣接地であり、遺跡の可能性が高く、試掘調査を行ったところ土器の出土がみられた。韮崎市教育委員会では、地権者並びに住宅建設業者と協議を行い、遺跡に工事が及ぶ建物建設の場所を再度細かく試掘して、東西7m、南北14mの長方形に調査区域を決定し、遺跡名を下馬城遺跡として平成12年３月28日から４月21日にかけて発掘調査を実施した。調査は遺物包含層ないしローム層まで重機によって掘り下げ、任意に５ｍグリッドを設定し、鋤簾を使い遺構の検出作業を行った。

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

下馬城遺跡は韮崎市内南西の大草町下条中割に所在する。竜岡台地の南辺を構成する舌状台地上に占地し、現在多くの部分が果樹園として耕作され、台地南端をかすめて割羽沢川が御勅使川へと流れている。遺跡の東側には比高差約14mの低地があり、本遺跡のある台地が自然堤防的な役割りをもち、この低地は耕作地として比較的安定していたといえる。

調査地点は舌状台地の付け根のほぼ中央から東側にかけての緩やかに傾斜する地点である。

第２節　歴史的環境

①周辺の遺跡（第１表・第２図）

下馬城遺跡の周辺では発掘調査例が少なく、長塚道上遺跡(1)、羽根前遺跡(2)、丸山東遺跡(3)、御座田遺跡(4)と本遺跡の５遺跡である。しかしながら、北巨摩郡教育会郷土研究部、仁科義男氏による調査や過去３回にわたる分布調査などにより多くの遺跡の所在が知られている。

旧石器時代では永岳寺を中心に広がる大門遺跡がある。平成９年に境内墓地西側の露頭から崩落した土の中から黒曜石製のナイフ型石器が１点表採されている(5)。他に縄文時代中期や弥生時代後期～古墳時代前期の土器等が散布している。

縄文時代になると遺跡数は増加する。特に中期の遺物が目立つ。未調査部分は多いが、土器の散布量から環状集落規模の遺跡と推定されるものに、今回調査した下馬城遺跡と大門遺跡を挙げることができる。この他に、羽根前遺跡（諸磯ｂ式・狢沢式・新道式・氷Ｉ式）などを挙げることができる。現在のところ旭山山麓周辺での当該期の遺跡は皆無の状況であるが、今後の埋蔵文化財有無確認調査が進む中で増加するものと考えられる。また、御勅使川扇状地においても隣接する八田村で遺跡が確認されており、このような地理的条件下の中でも包蔵されている可能性が高い。

古くから遺跡の存在が指摘されてきた竜岡・大草町地域では弥生時代以降が中心である。羽根前遺跡では畑地から耕作中に後期の遺物が出土している。下馬城遺跡と同一台地上にある宮前道遺跡でも後期から古墳時代前期の遺物が出土している。長塚道下遺跡でも同様である。

引き続き古墳時代の遺跡も確認されている。特に前期が多い。大門遺跡、羽根前遺跡、長塚道上遺跡、長塚道下遺跡や下馬城遺跡などがある。

(1) 閏間俊明1999「おわりに」『羽根前遺跡』韮崎市教育委員会

(2) 山下孝司1999『羽根前遺跡』韮崎市教育委員会

(3) 閏間俊明2003『丸山東遺跡』韮崎市教育委員会

(4) 山下孝司2001『御座田遺跡』韮崎市教育委員会

(5) 閏間俊明2000「大門遺跡」『八ヶ岳考古』平成11年度年報北巨摩市町村文化財担当者会

②近世から現代

遺跡の所在する台地の東側は現在、「町屋」と呼ばれる集落で、小字名は宿新居と下村である。この地

域は文化年間に編纂された『甲斐国志』に取り上げられている。

下条中割村　　町屋　　丸林

一高二百五十三石五斗二升六合　　戸三十二

口　百十二　男五十四　　馬九

女五十八　　牛一

東割村ノ西ニ在リ南ハ御勅使川ノ曠原西郡ノ有野村ヨリ二十余町信州路ノ古道ナリ

このことから、32戸数112人より集落が構成され、253石を超える石高があり、また信州路の古道が存在していたことがわかる。地元の言い伝えによれば、信州方面から身延山へ参詣する際の宿場として栄え、暴れ川の御勅使川を渡る直前の重要な集落であったといわれている。

集落内には神明神社がある。祭神を大日霎貴尊（天照大神の別名）とし、社記によれば再建が永禄年間（1558～70）であり、文化年間（1804～18）に再々建したとされる。大草町上条東割に所在する南宮大神社とは摂社の関係にあり、『南宮神社記』に宝永年間（1704～11）まで二月に花見の神事として南宮大神社から神明神社まで御幸祭りが行われていたことが記されている。現在の神社は字宿新居にあるが、『甲斐国志』には丸林（宿新居からは前田と呼ばれる低地を挟んで東側にある台地の一部）にあると記されていることや、伝承で割羽沢の氾濫により移築されたといわれていることから、移築は間違いないが、その時期については不明である。

『甲斐国志』では地名が町屋と丸林のみが記載されているが、下条中割にはその他にも地名が存在するので順を追って説明を加えておく。

現行の行政区分による小字名には、宮前道・下馬城・宿新居・下村・土橋・丸林・前田・河原田・下丸林・割羽沢・清水・新田の12個ある（第３図）。

「宮前道」は神社との関係を示すと考えられるが、南宮大神社であるか神明神社であるか、また、その他であるのかは不明である。「下馬城」は前述した御幸祭りの際に神明神社内にある御輿掛石にかける時に「下馬木」と唱えたという伝承があり、そのことと関係あるのだろう。「宿新居」は新しい宿のことを示すのであるが、どこに対して新しいのかを検討することで集落の成り立ちを捉えることができると考えられる。「下村」は町屋集落の最北端を示している。「土橋」については現状の地理的に条件を含んでおらず起源が不明確といえる。「丸林」地区は町屋集落からみると小高い丸い丘に見えることから付いたものと考えられ、「下丸林」はその南側、地図でいえば下に位置する範囲を示している。「前田」はその地形条件・土地利用条件から町屋集落内の居住者が耕す水田として付されたといえる。「河原田」「新田」は元来、割羽沢の河原であった場所を新たに水田にした範囲であろう。「割羽沢」は大門沢と割羽沢が合流し、本流となる地点を示している。

第３章　遺構と遺物

第１節　遺構

竪穴住居跡２軒と土坑３基を確認し調査した。

１号竪穴住居跡

平面形態は、直径4.5ｍのほぼ円形であり、主軸方向はＮ－12°－Ｗである。

竪穴内南側に埋設土器（埋甕）が１基ある。埋設に用いられた土器（１住－1）は上半部及び底部半分を欠いた状態で確認した。

炉跡は竪穴中央よりやや北側寄りに造られている。竪穴北東部分は比較的遺存状況が良好であり、確認面から床面まで30cm程度あるが、その他の部分は床面が脆弱であることと耕作により壁の立ち上がりは明瞭ではなかった。

２号竪穴住居跡

平面形態は、直径4.8ｍのほぼ円形である。西側は調査区外へと広がる。主柱穴は５～６本と考えられ、４本を確認している。炉跡は竪穴内中央よりやや北側に造られている。４個の炉石が遺存していたが、その状況から本来６個で構成されていたと推定される。

第２節　遺物

①土器・土製品

整理の方法

出土土器・土製品は、すべて実見した。遺構・グリッド単位で型式分類をし、重量を集計した後、接合作業を実施した。遺構の時期を示す資料を優先的に図化し、破片資料であっても遺跡の存続時期を示す資料について図化をおこなった。

1号竪穴住居跡の土器・土製品（第10・11図）

１号竪穴住居跡覆土中からの出土は少なく、破片が主体である。

埋甕（１住－１）は曽利Ⅲ～Ⅳ式である。１住－２は口縁部文様に二本隆線によるつなぎ弧文が施文されている点は曽利Ⅲ式であるが、胴部地文に半裁竹管内皮による綾杉文が施文されていることから、曽利Ⅳ式に近い属性を兼ね備えた土器といえる。この他、井戸尻式から曽利Ⅲ式の破片が出土している。

２号竪穴住居跡の土器・土製品（第11～15図）

２住－１は床面に横転した状態で出土したものである。胴部のくびれ部が黒色化し、アバタ状の剥落が見られる。２住－９は底部を欠き、床面に接して逆位の状態で出土した。口縁部の波頂部の一つがやや離れて出土している。この他、藤内Ⅱ式から井戸尻Ⅰ式を中心として、曽利Ⅰ式までがある。

土坑・遺構外の土器・土製品（第16～18図）

図示し得なかったが、胎土に繊維を含む早期から前期の土器が若干出土している。主体となるのは藤内式～井戸尻式で、次に曽利Ⅲ～Ⅳ式であり、新道式や曽利Ⅴ式がやや混在する。

焼成粘土塊が遺構外で１点出土しているが、その出土位置と２号竪穴住居跡内のものと胎土や焼成などが類似していることから、同時期のものと考えられる。

土器・土製品の様相

２号竪穴住居跡からいわゆる吹上パターンで藤内Ⅱ式から井戸尻Ⅰ式期の土器群が出土した。いずれの土器・土製品も竪穴住居廃絶後に竪穴内に廃棄されたと考えられる。２住－１・３・10は床面に接して出土し完存率95％以上であることや、底部のみ欠損し逆位で倒立した状況で出土した２住－９などがあることから、比較的短期間の廃棄行為による結果であろう。

②石器

整理の方法

出土石器は、すべてを実見した。一次選択として住居跡・土坑を中心に、加工の明瞭な石器を抽出した。選択し、台帳を兼ねた属性表を作成し、図化・記述を行った。次に破損が少なく遺跡の特徴をよく示す石器を二次選択した。

選択で漏れた石器は、磨石１点、円礫１点、打製石斧断片13点、黒曜石石器小断片32点である。属性表と図化した点数は41点である。

属性表は、出土属性・石材・器種・剥離技術・素材技術・素材形態・法量（ミリ単位）について記述した。

剥離技術の記号は以下である

直接打撃＋ハードハンマー＝HD
間接打撃＋ハードハンマー＝HI
押圧剥離＋ハードハンマー＝HP
直接打撃＋ソフトハンマー＝ＳＤ
間接打撃＋ソフトハンマー＝ＳＩ
押圧剥離＋ソフトハンマー＝ＳＰ

以下に石器の説明を行う（図版と属性表には仮番号を付した）。

１号竪穴住居跡の石器（第19図）

３は安山岩の削器である。手前の辺が刃部で、よく摩耗している。裏面は、先端の細い工具を用いたHDで加工されている。２は柄の付いた削器である。側辺をHDで成形加工して、刃部は素刃である。裏面に刃こぼれが観察でき、力の入る作業をしたと推定できる。５は打製石斧で被熱資料。遺構内で破損したものが接合している。４は打製石斧としたが、刃部は鋭くヘラ状になる。土器の成形工具とも推定できる。１は黒曜石の石錐。HPの加工が胴部の一部にあるが、刃部は素材の尖った辺である。６～８は礫石器。磨石と敲石、それに両者が複合した石器が各1点である。同じ円礫素材を用いて、機能が複合していることが特徴的である。

２号竪穴住居跡の石器（第19・20図）

９は黒曜石製の石鏃。先端が細く、工具そのものが変形するソフトハンマーの押圧剥離（SP）で加工されている。良質・優品である。10は黒曜石の石錐。１号住居跡と同じ種類の石錐である。11は黒曜石の

間接打撃石核。小さな亜角礫を素材に、先の細く硬い工具で、小さな剥片を剥離している。図の右側辺に比較的大きな貝殻状の剥片が剥がされている。22はタマネギ状剥離（自然剥離）の円礫の周囲をHDで打ち欠いた石器で、南関東の勝坂式土器文化に少量伴う例がある（多摩ニュータウン遺跡』105遺跡など）。類例を蒐集した分析が必要な石器である。

12～21までは打製石斧に関連する資料である。21は打製石斧の素材剥片である。15・18は打製石斧の側辺を加工途上の未成品である。14・16は刃部の欠損した打製石斧で、欠損の理由は不明である。12・13・17・19・20は完形の打製石斧で、側辺に敲打整形のないものと、念入りに敲打整形されたものがある２号竪穴住居跡では、打製石斧の加工工程が残っているので、敲打整形されないものの一部は、完成品直前の打製石斧とも推定される。

23～26までは磨石と敲石。1号住居跡出土と全く同じである。30は炉石の断片。29は大形石皿の断片である。

28は溶岩の断片である。八ヶ岳西南麓の縄文中期遺跡には、しばしば溶岩が住居内で発見される場合がある。類例は長野県原村の縄文中期初頭にあるのを、諏訪の五味一郎氏からご教示いただいた。27は打製石斧や削器の素材剥片を剥離した残核である。

土坑出土の石器（第20図）

32は２号土坑の削器。31は３号土坑の横形石匙である。

グリッド出土の石器（第20図）

33は黒曜石の凹基石鏃。36は黒曜石の横形石匙。正面図の手前の辺にはソフトハンマーの丁寧な押圧剥離で刃部が形成されている。なお、この石匙の刃部裏面には、皮革加工の処理でみられる摩耗光沢が明瞭に観察できた。縁辺に対して平行方向の線状痕が存在し、光沢はＥ・Ｉタイプである。これらの使用痕は腹面部分では全体に広がるが、背面側のリタッチ内はなく、剥離の稜や古い剥離面のみに広がる。このことは刃部再生による刃の付け替えが、使用痕分布の差を生じた可能性を示す。光沢や線状痕の特徴から皮革類に対するカッティングに使用された石器と推定できる。

35・39・40は打製石斧。35のみ顕著な摩耗痕が刃部に観察できる。34は横形石匙。37・38は削器である。

石器群の様相

下馬城遺跡は断片的な資料ながら、当該時期の石器組成の様相をよく示している好資料である。２軒の住居の石器組成はほぼ同じで石器文化としては同じである。

石器の様相は、黒曜石を用いた小形の利器・安山岩など風化しやすい石材を用いた中形の削器、同様の石材を用いた打製石斧、多孔質の石材を用いた磨石・敲石・石皿類などの礫石器である。黒曜石の利器は、石鏃が精緻な押圧剥離の加工で、出土量は少ない。石錐は素材の尖った辺を用い、形態形成加工がほとんどないのが特徴である。石匙は、安山岩と黒曜石の2種類あり、すべて横形石匙である。土坑に埋められた石匙も横形石匙なので、この石器文化の石匙は横形である。黒曜石は少ないが、36のような好資料がある。

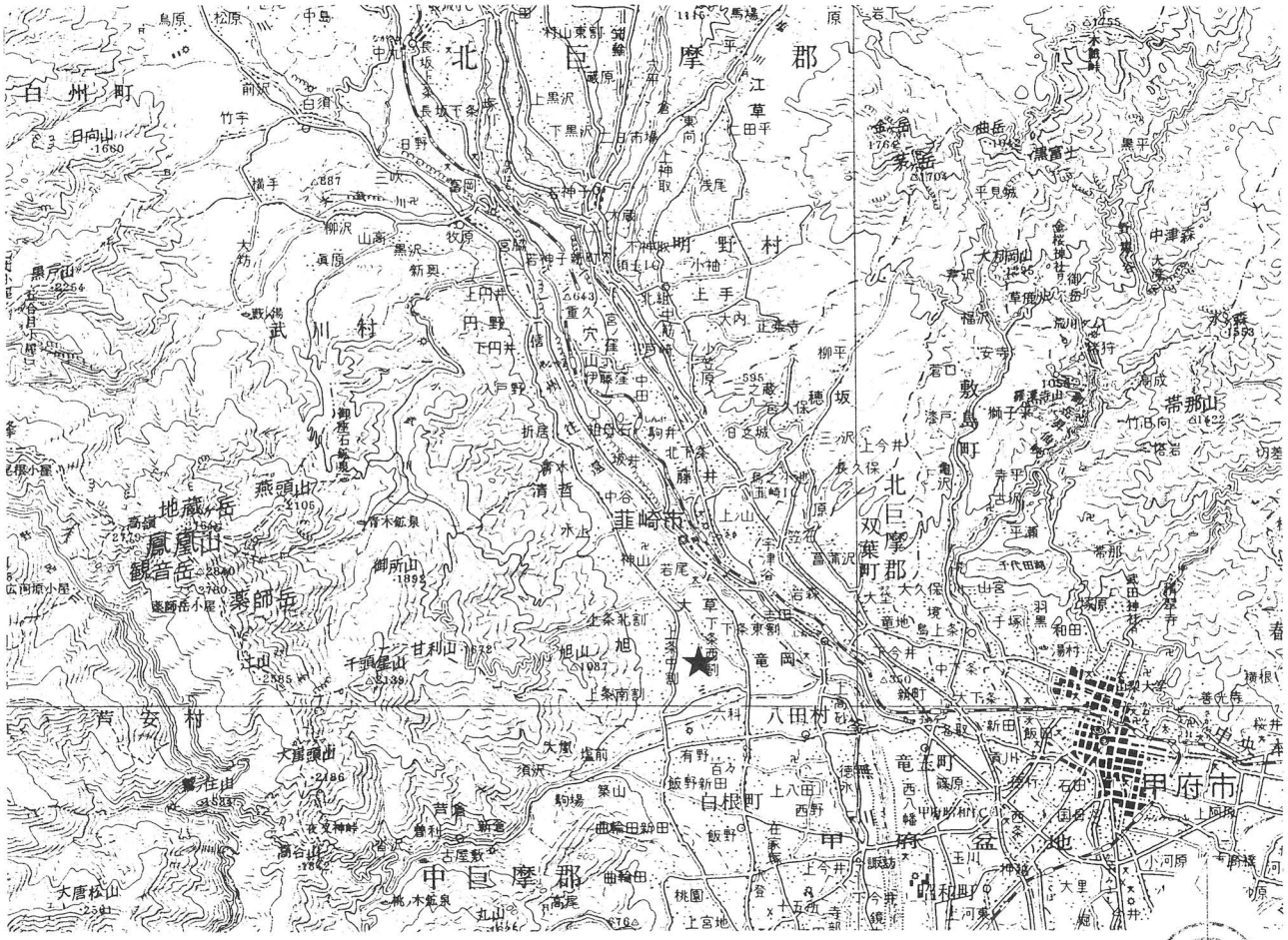
中形の削器には、黒曜石は用いられず、比較的薄い素材剥片の側辺に刃部をもうける。風化が激しいために、使用痕光沢は観察できないが、この種の削器類は利器の主要器種である。打製石斧は、下馬城遺跡の住居内で素材剥片から、敲打整形まで行われた可能性がある。打製石斧もこの時期の主要器種である。

磨石・敲石は、両者が単独であるもの、両者の機能が混在するものがあり、同じ使い手を推定させる。

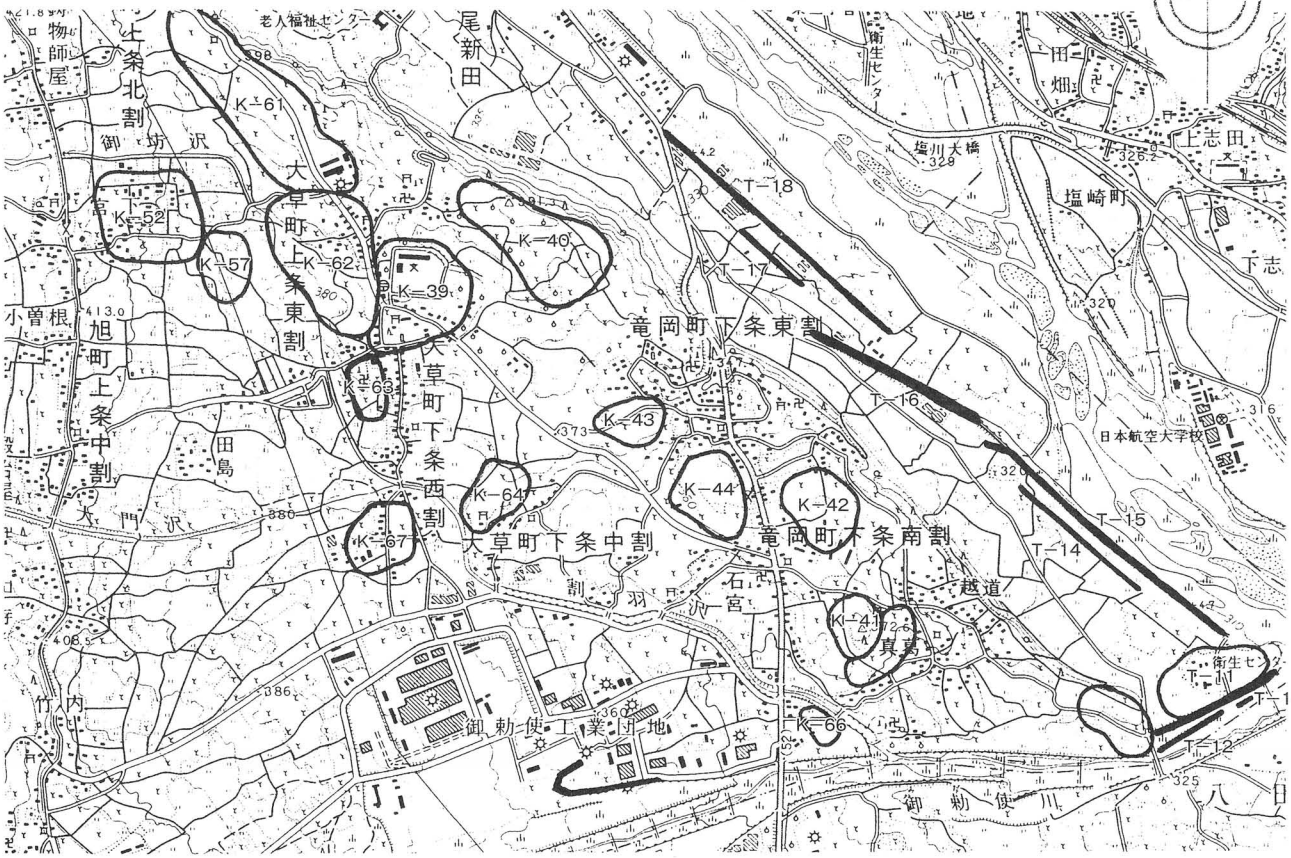
以上の石器群様相は、縄文中期の後半期の典型的な様相の一部である。遺跡によって、残される器種の量的比率が極端に異なる場合もある。遺跡間の器種組成研究を推進するのに下馬城遺跡の住居跡資料は良好な資料といえる。（角張）

遺跡No.	遺跡名	所在地	時代	備考
K28	長塚道上第2遺跡	龍岡町下條東割	平安	
K39	羽根前遺跡	大草町上條東割	縄文	
K40	丸山東遺跡	大草町上條東割字上ノ久保	古代～近世	
K41	宮本遺跡	龍岡町下條南割字宮本	縄文	
K42	長塚道下遺跡	龍岡町下條東割字長塚道下	縄文・弥生・古墳・平安	
K43	長塚道上遺跡	龍岡町下條東割字長塚道上	縄文・近世	
K49	桜木第3遺跡	旭町上條北割字桜木	縄文・平安・中世	
K50	渋田遺跡	旭町上條中割字渋田	縄文・平安・中世・近世	
K51	旭二反田遺跡	旭町上條中割字二反田	縄文・平安	
K52	小曽根遺跡	旭町上條中割字小曽根	縄文・平安	
K55	小曽根第2遺跡	旭町上條中割字小曽根	平安	
K57	宮下遺跡	旭町上條北割字宮下	平安	
K58	大輪寺関連遺跡	旭町上條北割	平安・中世	大輪寺東遺跡を含む
K59	久保屋遺跡	旭町上條北割字久保屋	平安	
K61	久保屋敷遺跡	大草町上條東割字大石	縄文・平安・中世	
K62	築地遺跡	大草町上條東割	縄文・平安・中世	
K63	大門遺跡	大草町下条西割	縄文・古墳・平安	
K64	下馬城遺跡	大草町下条中割宿新居	縄文	
K66	真葛遺跡	龍岡町下條南割西原	縄文	
K67	蔵屋敷遺跡	大草町下条西割	奈良・平安	
T11	御座田遺跡	龍岡町下條南割字御座田	中世	伝十六石
T12	御座田一番堤	龍岡町下條南割字御座田	中世～現代	
T13	御座田二番堤	龍岡町下條南割字御座田	中世～現代	
T14	古宮一番堤	龍岡町下條南割字古宮	中世～現代	
T15	古宮二番堤	龍岡町下條南割字古宮	中世～現代	
T16	阿寺沢一番堤	龍岡町下條南割字阿寺沢	中世～現代	
T17	出水一番堤	龍岡町下條東割字出水	中世～現代	
T18	清水久保一番堤	龍岡町下條東割	中世～現代	
T29	竜岡将棋頭	龍岡町下條南割	中世・近世	国史跡(H15.03.25)

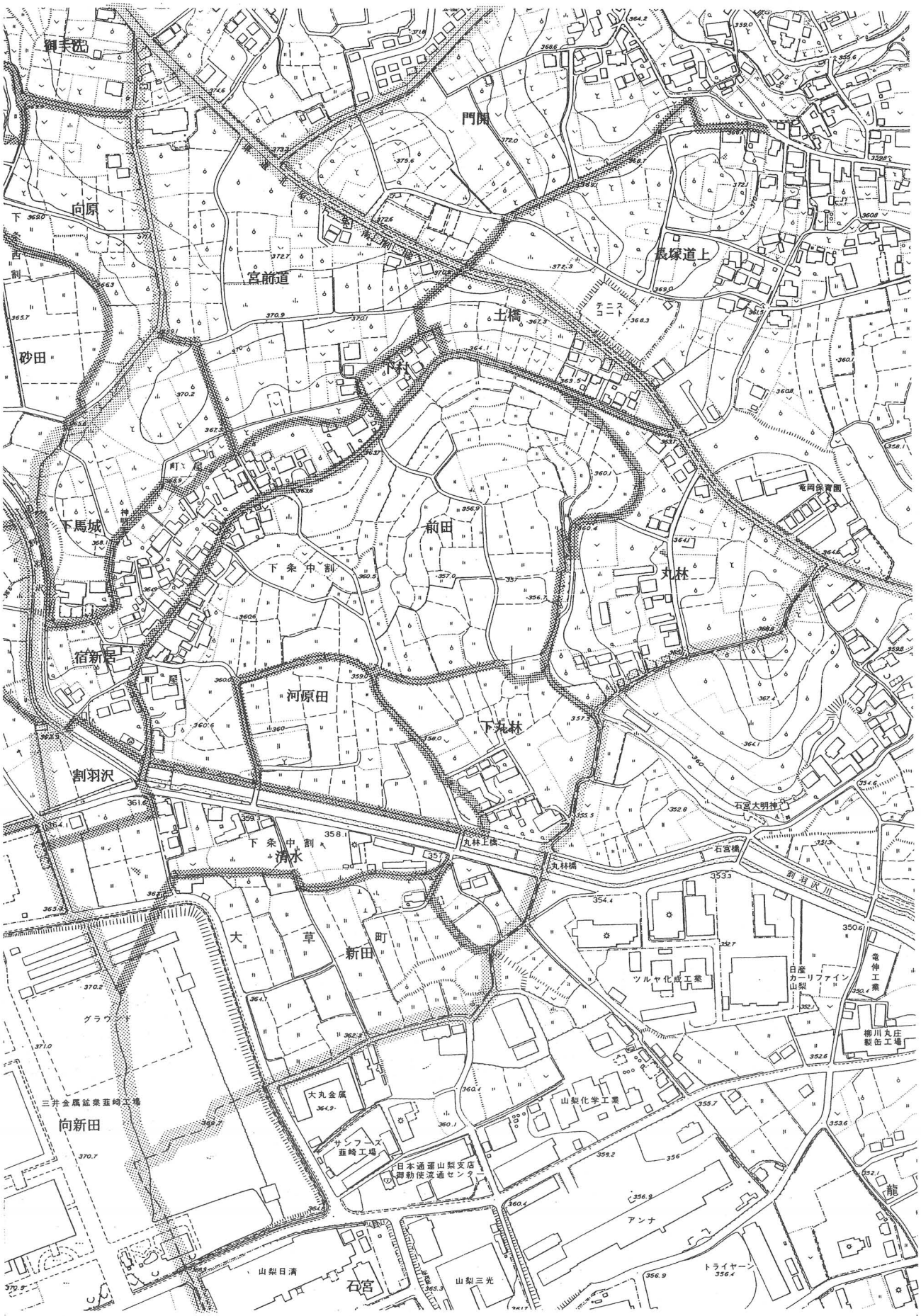
第１表　遺跡地名表



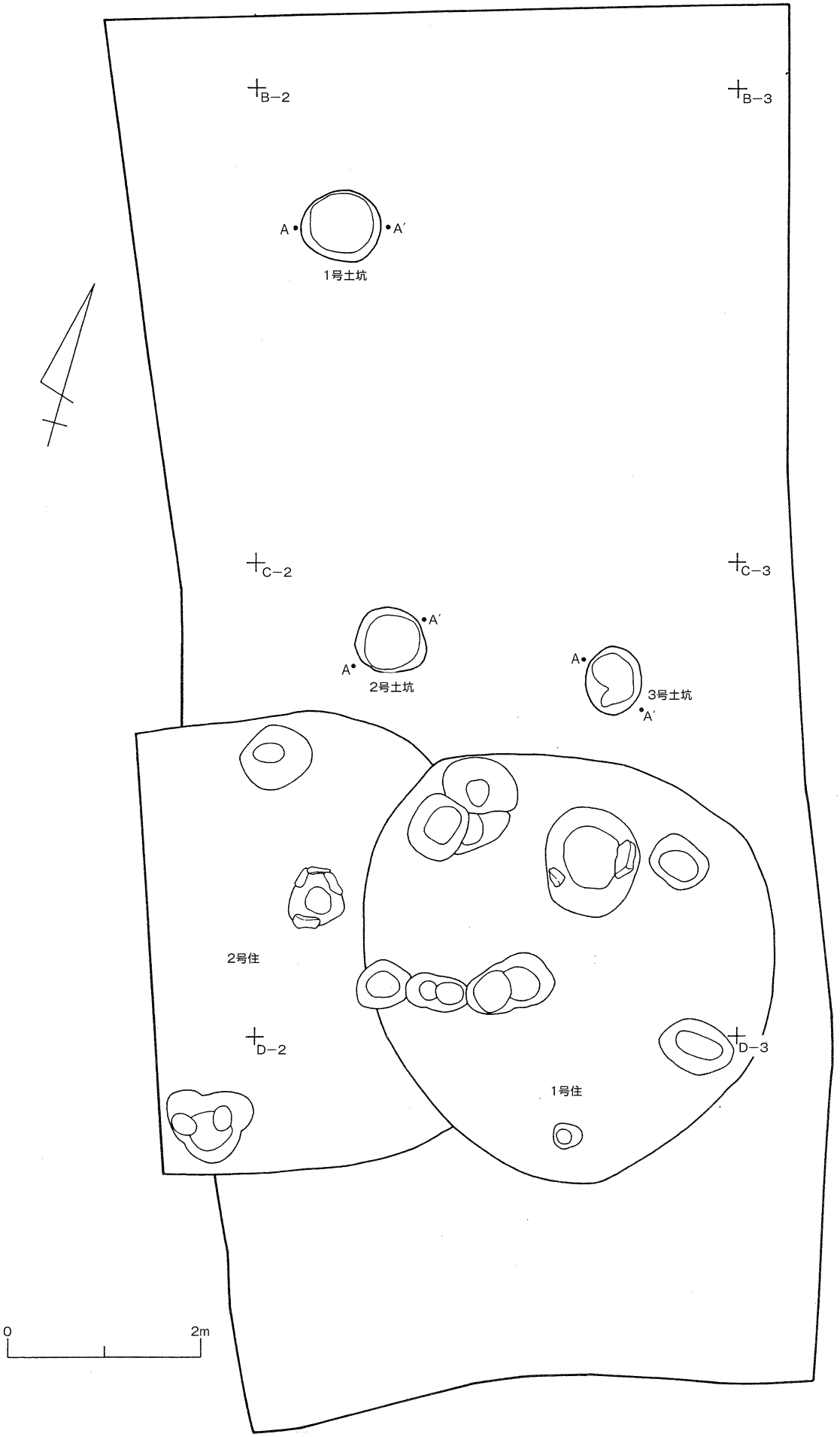
第１図　下馬城遺跡位置図（S=1／200,000）



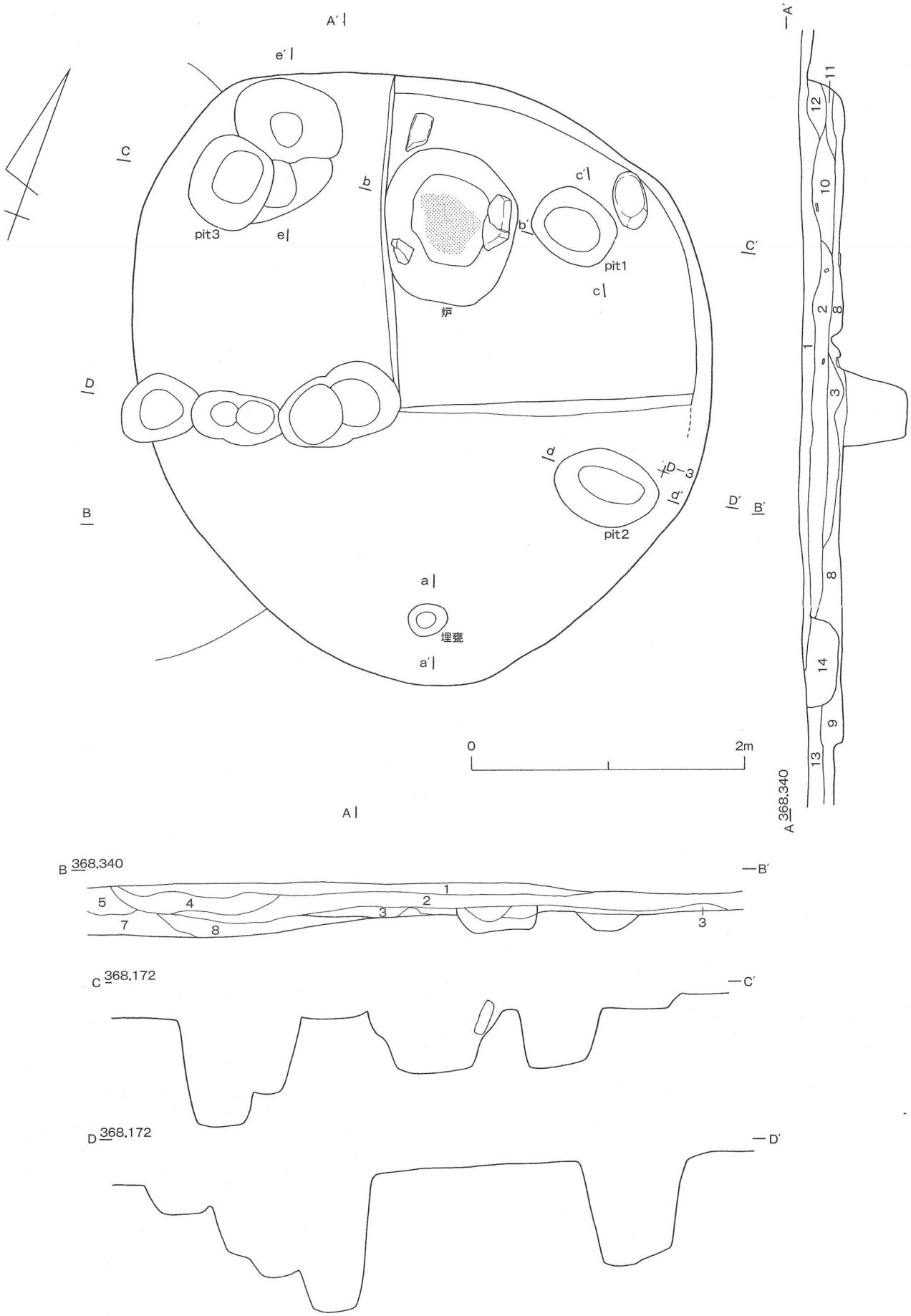
第2図　下馬城遺跡と周辺の遺跡（S=1／25,000）



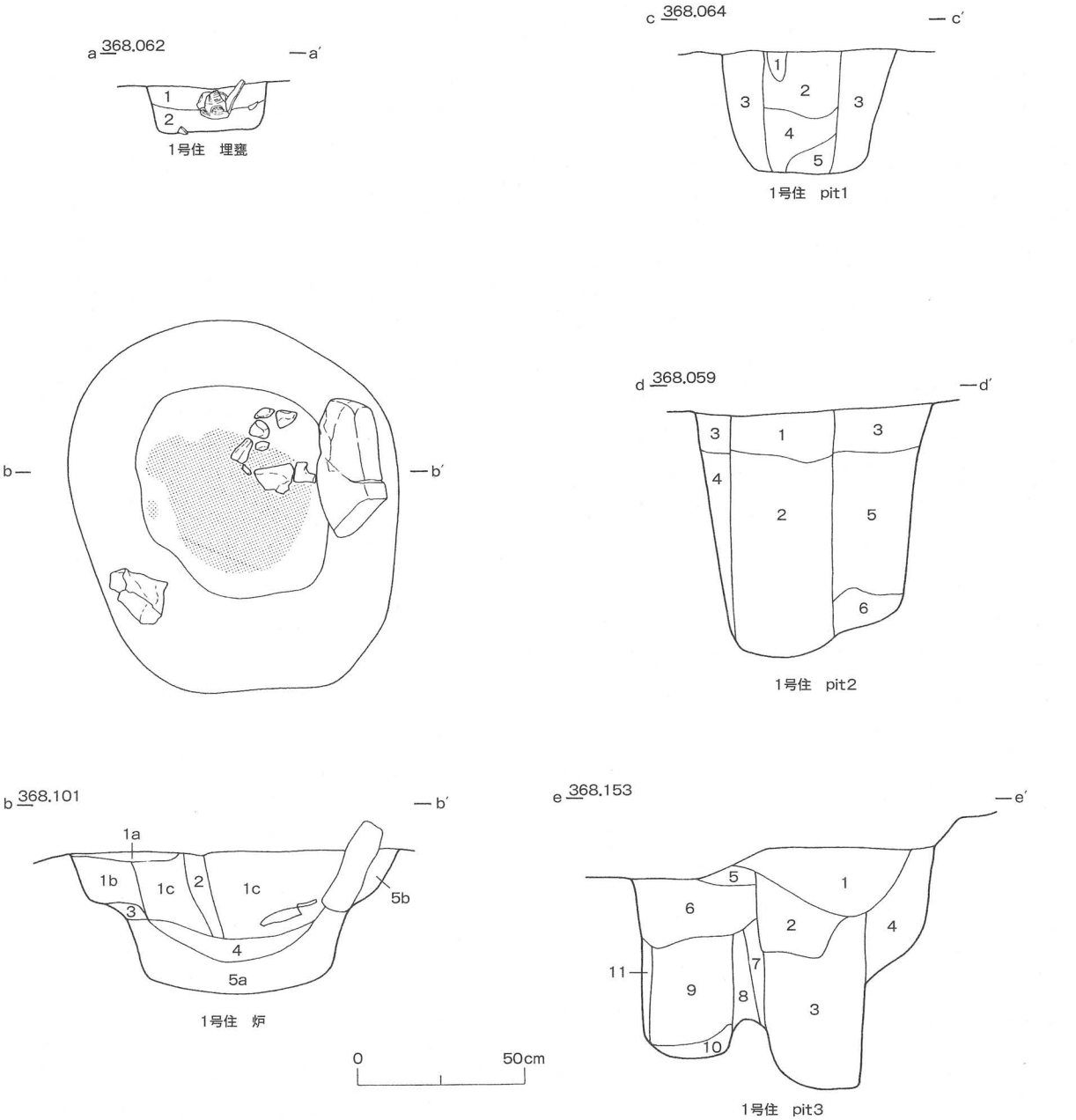
第３図　周辺の小字名と境（S=1／5,000）

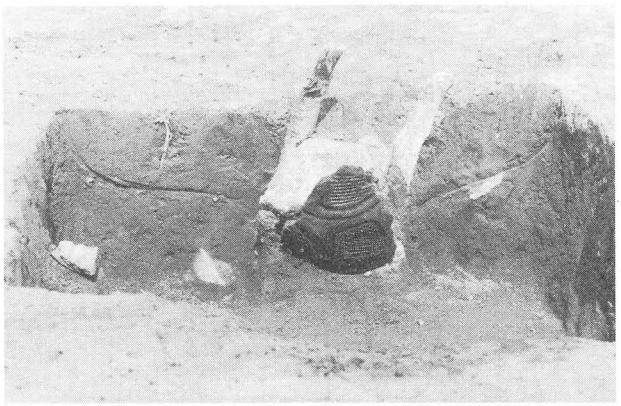


第４図　下馬城遺跡配置図（S=1／60）

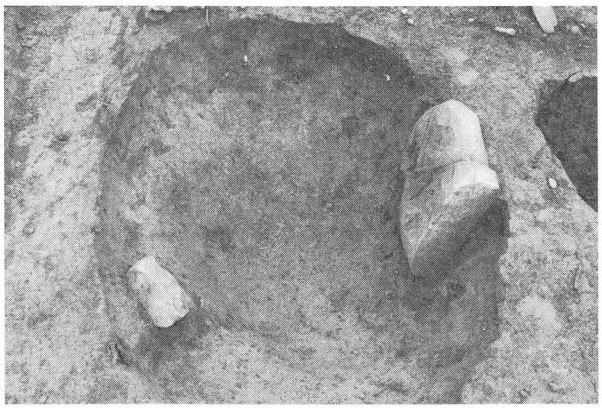


第５図　１号住居跡平・断面図（S=1／40）



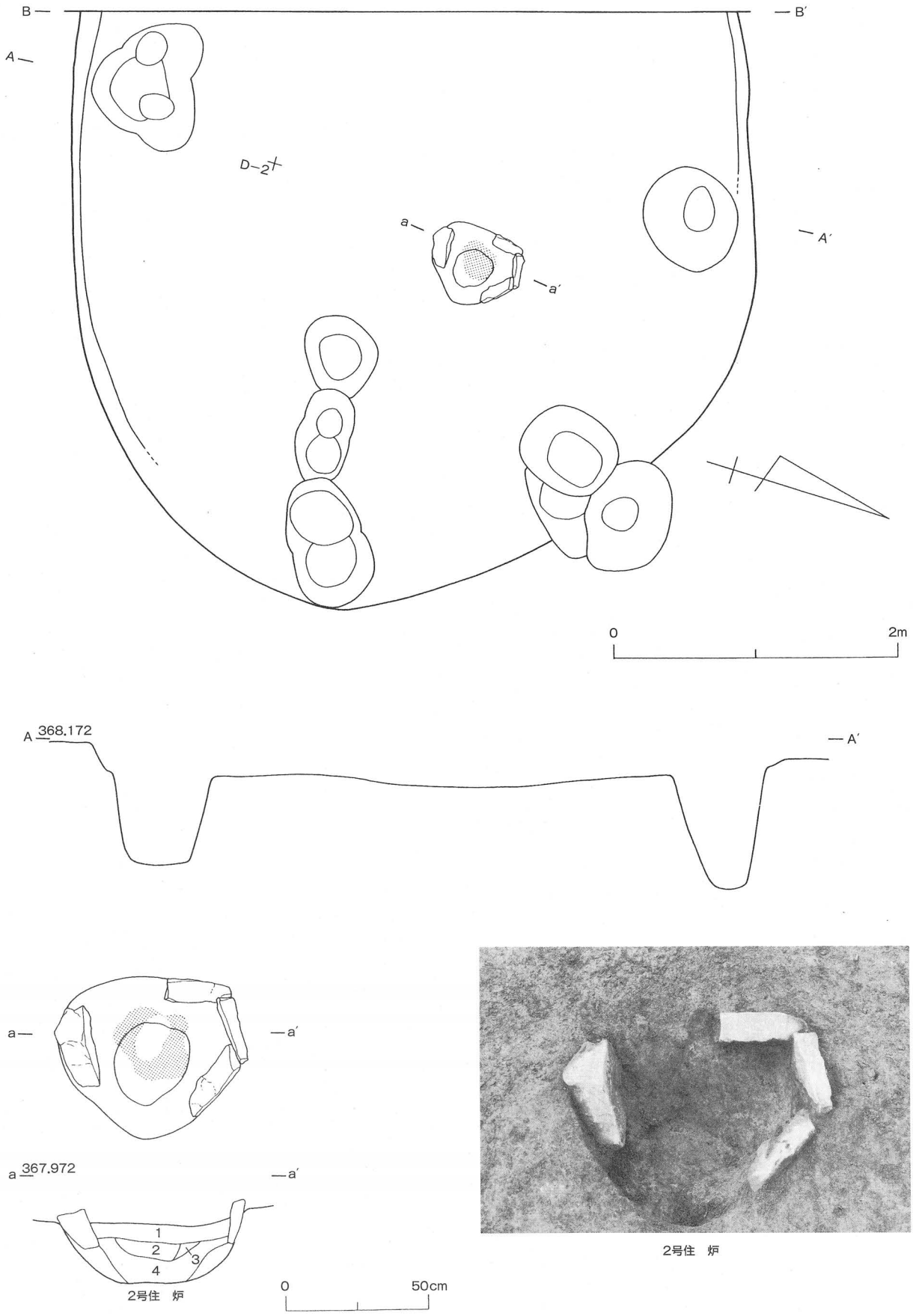


1号住　埋甕

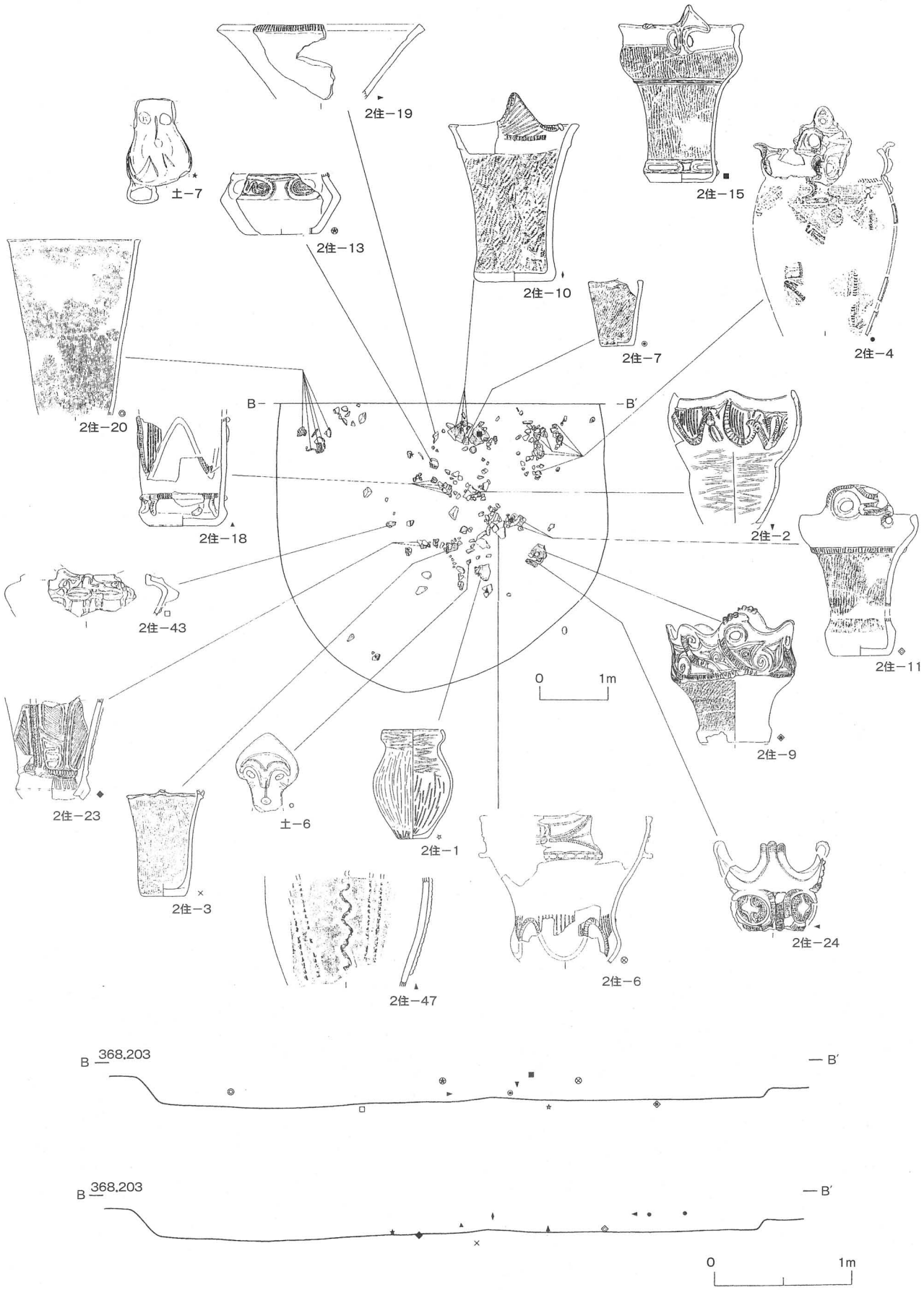


1号住　炉

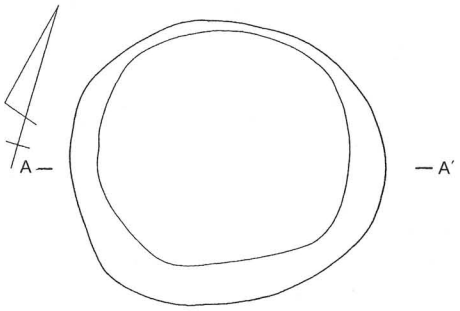
第6図　1号住居跡　炉　埋甕　pit　平・断面図（S=1／20）

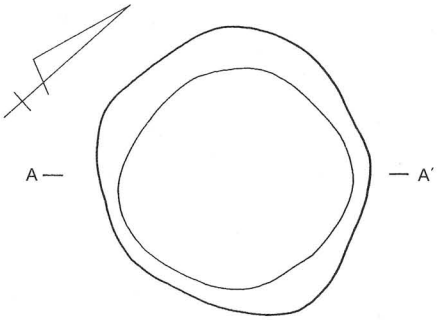


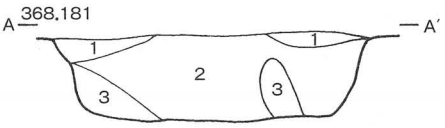
第７図　2号住居跡平・断面図（S=1／40，1／20）



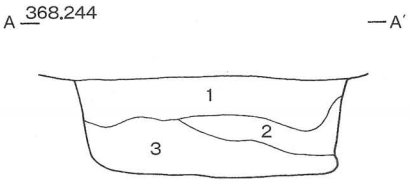
第８図　2号住居跡　遺物出土状況（S=1／80，1／40）



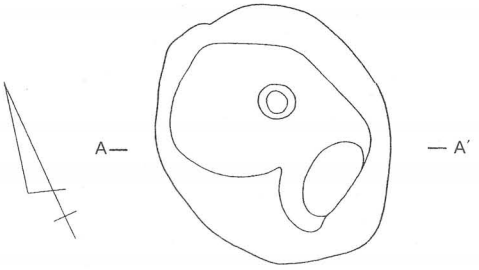


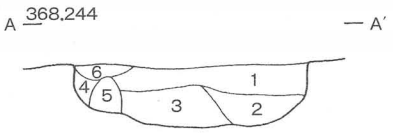


1号土坑

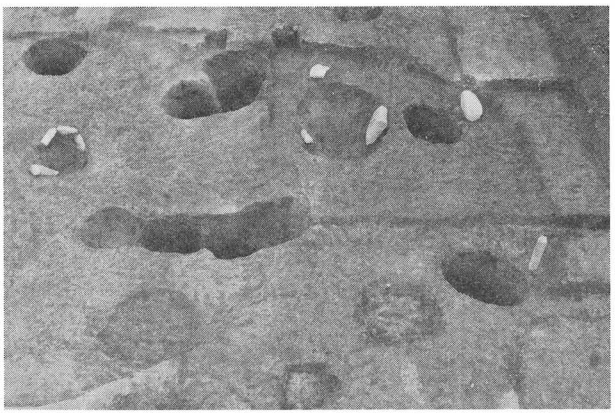


2号土坑

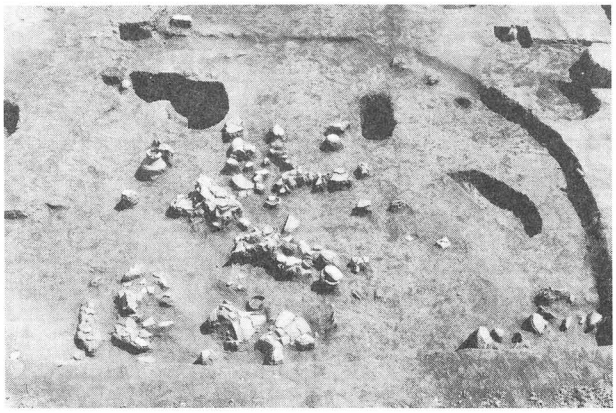




3号土坑



1号住　完掘



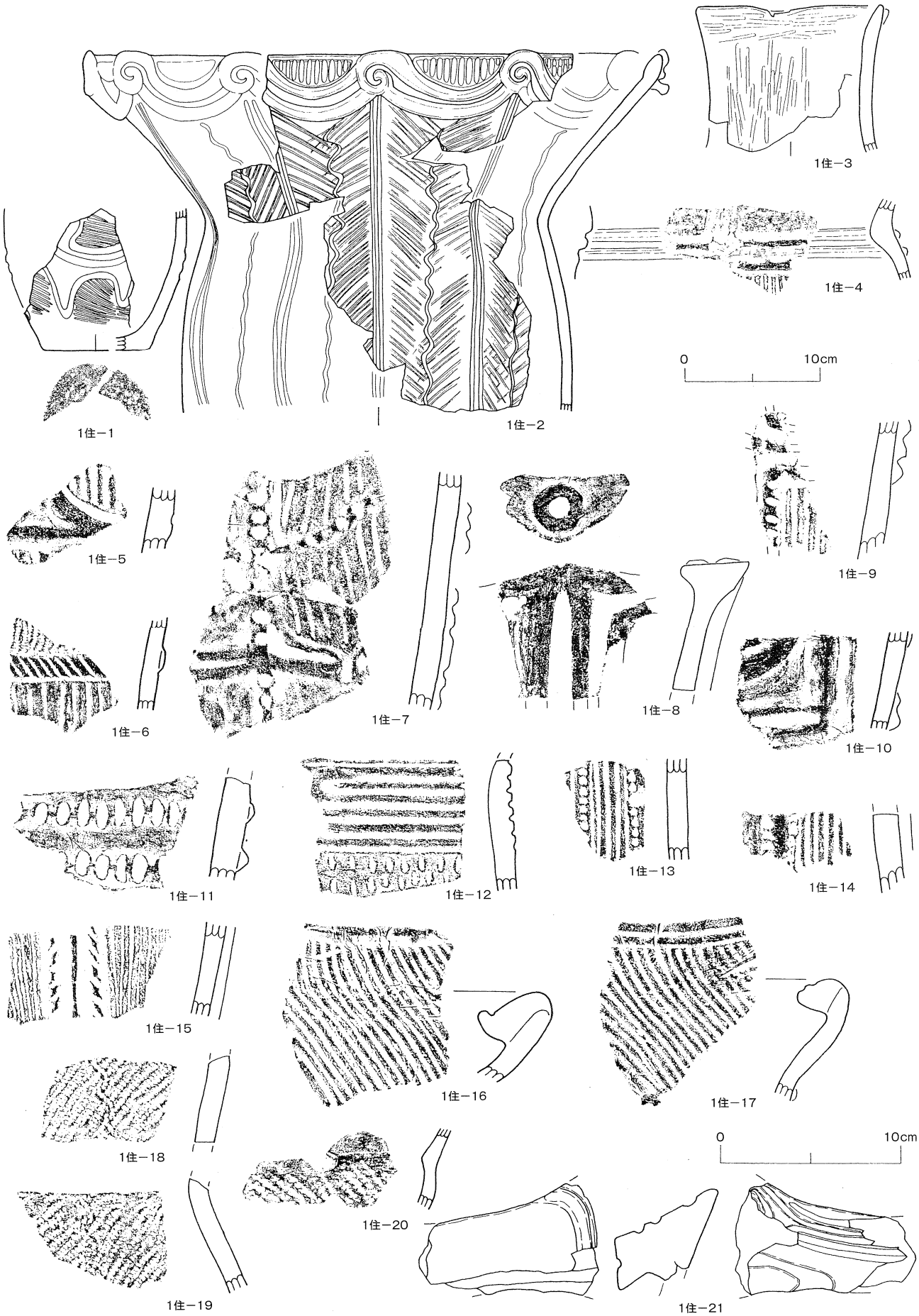
2号住　遺物出土状況

2号住　完掘

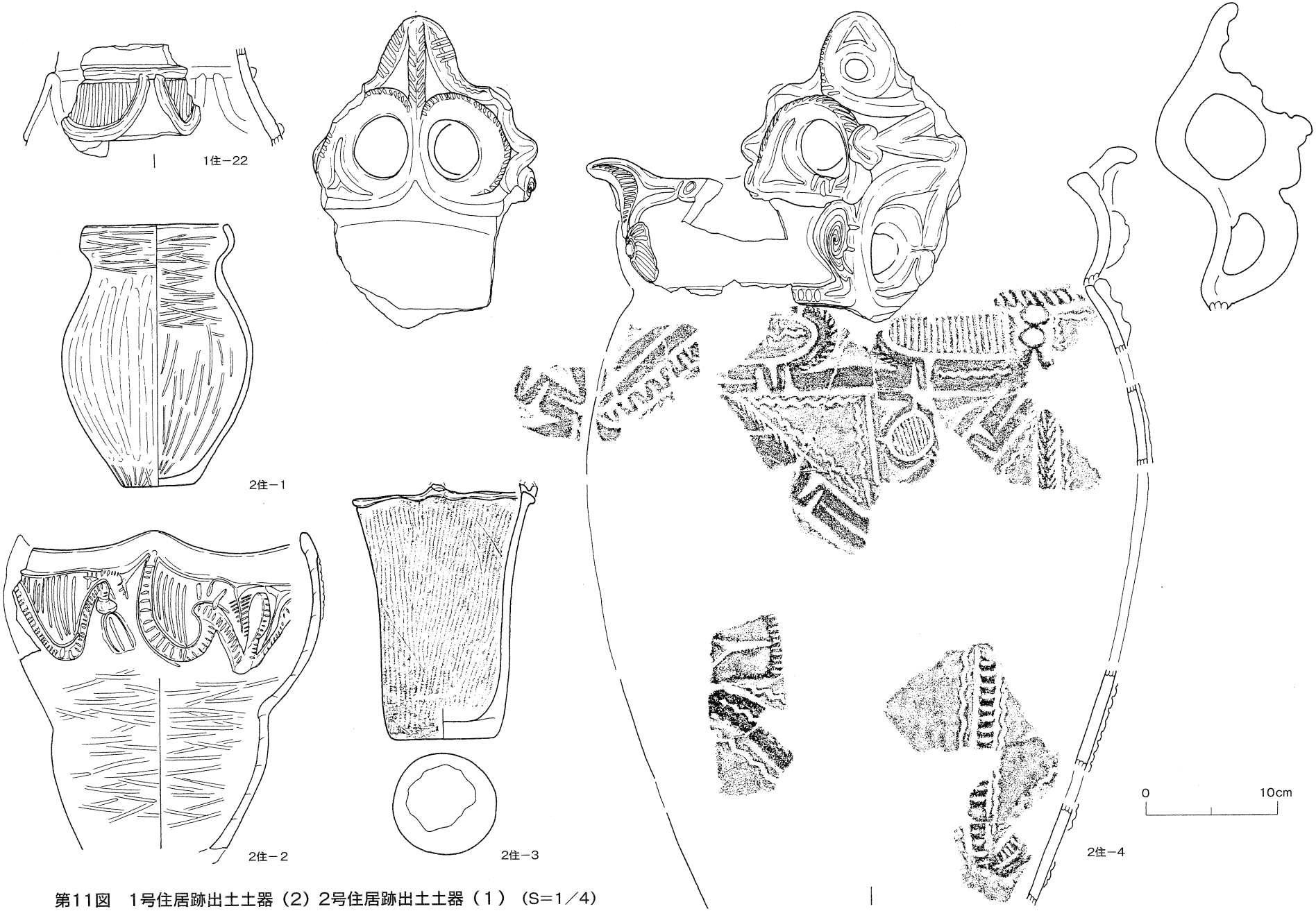
第９図　1号土坑　2号土坑　3号土坑平・断面図（S=1／20）

図版No.	遺跡名	セクション名	No.	色調	土層説明
	1住	A・B	1	暗褐色	暗褐色土ベースに、暗黄褐色土・黄褐色土・赤褐色粒子・炭化粒子が混入する。しまりのある土層。
			2	暗褐色	暗褐色土ベースに、暗黄褐色土・黄褐色土を斑状に混入する。若干の炭・赤褐色粒を含む。ややしまりのある土層。
			3	暗褐色	暗褐色土ベースに、しまりのある暗黄褐色土が混入する。若干の炭・赤褐色粒を含む。しまりのある土層。
			4	暗褐色	暗褐色土ベースに、暗黄褐色土ブロック・炭・赤褐色粒子が混入する。しまりのある土層。
			5	暗褐色	暗褐色土ベースに、炭・赤褐色粒子が混入する。ややしまりのない土層。
			6	欠番	
			7	暗黄褐色	暗黄褐色土ベースに、炭粒、若干の焼土粒が混入する。ややしまり、粘性のある土層。
			8	暗黄褐色	7層に似るが暗い。
			9	明黄褐色	地山
			10	暗褐色	暗褐色土ベースに、暗黄褐色土・炭粒・赤褐色粒が混入する。ややしまりのある土層。
			11	暗黄褐色	暗黄褐色土ベースに、若干の炭化粒を含む。しまりのある土層。
			12	暗褐色	暗褐色土ベースに、若干の暗黄褐色土を含む。しまりのない土層。
			13	暗褐色	暗褐色土ベースに、暗黄褐色土・若干の炭粒が混入する。ややしまりのある土層。
			14	暗褐色	暗褐色土ベースに、暗黄褐色土・白色粒子・若干の炭を含む。ややしまりのない土層。
	1住埋甕	a	1	暗黄褐色	炭化物粒少量含む。粘性なし、きめやや粗い、しまり強。
			2	明褐色	粘性弱、きめやや細かい、しまり強。
	1住炉	b	1a	暗黄褐色	焼土・ローム粒・炭化物粒子少量含む。1b・1cが乾燥した土層。粘性なし、きめやや粗い、しまり非常に強い。
			1b	暗黄褐色	焼土・ローム粒・炭化物粒子をやや多く含む。粘性弱、きめやや細かい、しまり強。
			1c	暗黄褐色	1mm～10mmのローム粒・焼土・炭化物粒子を多く含む。粘性やや弱、きめやや細かい、しまり強。
			2	暗褐色	腐植土層。粘性なし、きめ粗い、しまりなし。
			3	暗黄褐色	1bよりやや赤い。粘性やや弱、きめやや細かい、しまりやや強。
			4	赤褐色	焼土。粘性なし、きめやや粗い、しまりやや強。
			5a	明黄褐色	ローム層が被熱。粘性やや弱、きめやや細かい、しまりやや弱。
			5b	明黄褐色	被熱なし。粘性やや弱、きめやや細かい、しまりやや弱。
	1住pit1	c	1	明褐色	炭化物若干含む、ぶかぶかしており、根腐れと思われる。粘性弱、きめやや細かい、しまり弱。
			2	黄褐色	5mm前後の炭化粒子・焼土粒子を少量含む。3層より若干色が濃い。粘性やや強、きめ細かい、しまりやや強。
			3	明黄褐色	ロームで固めたもの、2層より粘性が強い。粘性強、きめ細かい、しまり強。
			4	暗黄褐色	柱穴跡が残ったものとみられる。粘性やや強、きめやや細かい、しまりやや弱。
			5	黄褐色	4層より若干色が明るい。3層と混ざったもの。粘性やや強、きめやや細かい、しまりやや弱
	1住pit2	d	1	暗褐色	暗褐色土ベースに、暗黄褐色土・赤褐色粒・炭化粒が混入する。しまりあり。
			2	暗褐色	暗褐色土ベースに、炭化粒・白色粒を含む。しまりややあり。
			3	暗黄褐色	黄褐色土と、暗黄褐色土の混ざった土層。若干の炭化粒を含む。しまりあり。
			4	黄褐色	黄褐色ローム土ベースに、暗褐色土を含む。しまりあり。
			5	黄褐色	黄褐色ローム土ベースに、暗黄褐色土を含む。4層に似る。しまりあり。
			6	明黄褐色	黄褐色ローム土層。しまりややなし。
	1住pit3	e	1	暗褐色	暗褐色土ベースに、黄褐色粒子・焼土粒子・炭化粒が混入する。しまりややあり。
			2	暗褐色	暗褐色土ベースに、炭化粒・若干の焼土粒を含み、黄褐色土粒が混入する。しまりややなし。
			3	暗褐色	暗褐色土ベースに、黄褐色土粒・炭化粒が混入する。
			4	黄褐色	黄褐色土ベースに、暗黄褐色土・炭化粒を含む。しまりあり。
			5	暗黄褐色	黄褐色土と暗黄褐色土の混じりあった土層。しまりあり。
			6	暗黄褐色	暗黄褐色土ベースに、暗褐色土・黄褐色土粒・炭化粒・僅かに焼土粒が混入する。しまりややあり。
			7	暗褐色	暗褐色土・暗黄褐色土・黄褐色土の混合したやや明るい土層。炭化粒子を含む。
			8	黄褐色	黄褐色土ベースに、若干の暗黄褐色土・炭化粒を含む土層。
			9	暗褐色	暗褐色土ベースに、暗黄褐色土・黄褐色土粒・炭化粒が混入する。しまりややなし。
			10	黄褐色	黄褐色土ベースに、暗黄褐色土を僅かに含む土層。
			11	黄褐色	黄褐色土ベースに、暗黄褐色土を含む。8層に似る。しまりややなし。
	2住炉	a	1	暗褐色	1mm～10mm前後の炭化物・ローム粒子・焼土粒子を多く含む。粘性強、きめ細かい、しまりやや強。
			2	赤褐色	焼土。粘性なし、きめ細かい、しまり強。
			3	暗黄褐色	1mm前後の焼土粒子を非常に多く含む。赤っぽい。粘性やや弱、きめやや細かい、しまり弱。
			4	黄褐色	1mm前後の焼土粒子を含む、カリカリしている。(ロームの被熱)粘性弱、きめ細かい、しまりやや弱。
	1号土坑	A	1	明褐色	耕作による攪乱。粘性弱、きめ細かい、しまり強。
			2	暗褐色	赤色スコリア、ローム粒子を含む。粘性やや弱、きめやや細かい、しまりやや強。
			3	黒褐色	ローム粒子を含む。根による攪乱。粘性なし、きめ粗い、しまりなし。
	2号土坑	A	1	暗褐色	暗褐色土ベースに、黒褐色土小塊、黄褐色土をブロック状に含む、暗黄褐色土混入。しまりややあり。
			2	暗褐色	暗褐色土ベースに、暗黄褐色土・僅かな黄褐色土粒を混入する。しまりややなし。3層中一番暗い。
			3	暗褐色	暗褐色土ベースに、暗黄褐色土・赤褐色粒が混入する。しまりややあり。1層よりしまりなし。
	3号土坑	A	1	暗褐色	暗褐色土ベースに、暗黄褐色土・黒褐色土小塊を混入する。ボソボソとした土層。しまりややあり。
			2	暗褐色	暗褐色土ベースに、黄褐色土小塊を含む土層。若干のカーボンを混入する。
			3	暗褐色	暗褐色土ベースに、黄褐色土・焼土粒子・炭粒子を混入する。しまりあり。
			4	暗黄褐色	暗褐色土と暗黄褐色土の混じりあった土層。しまりあり。
			5	黄褐色	黄褐色ローム土層。しまりあり。
			6	暗褐色	暗褐色土ベースに、黒褐色土小塊を含む堅い土層。

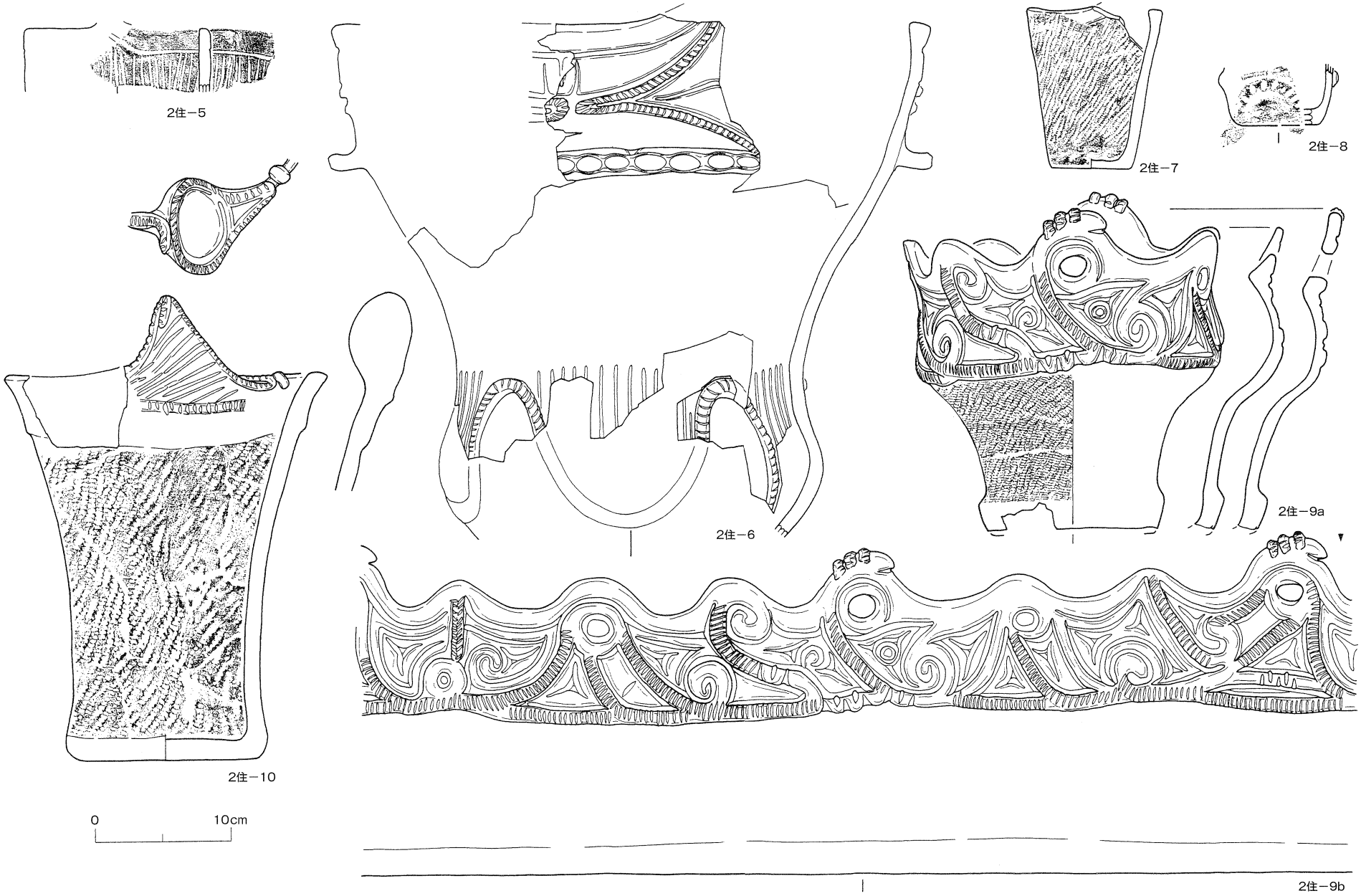
第2表　土層観察表



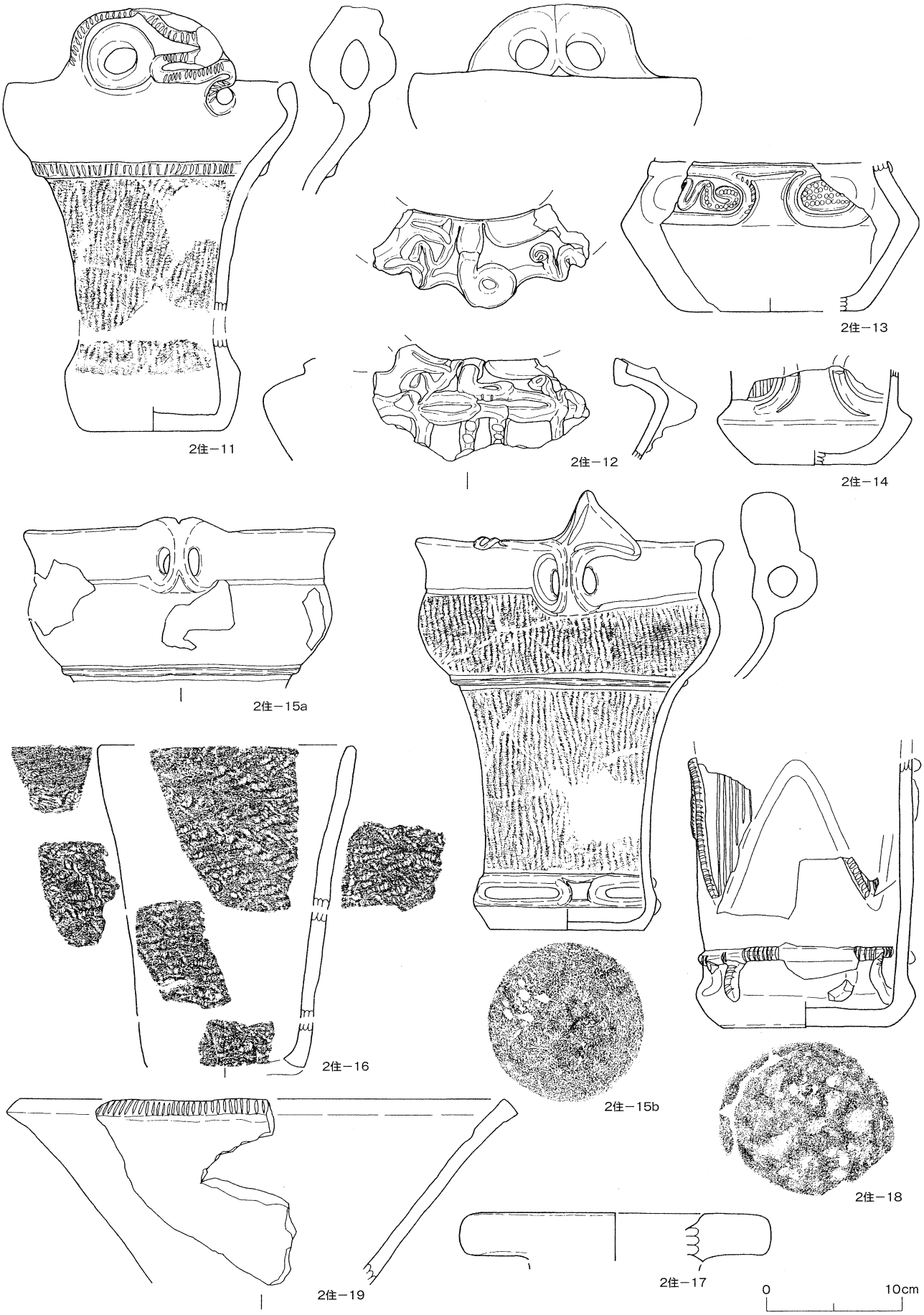
第10図　1号住居跡出土土器（1）（1～4　S=1／4・5～21　S=1／3）



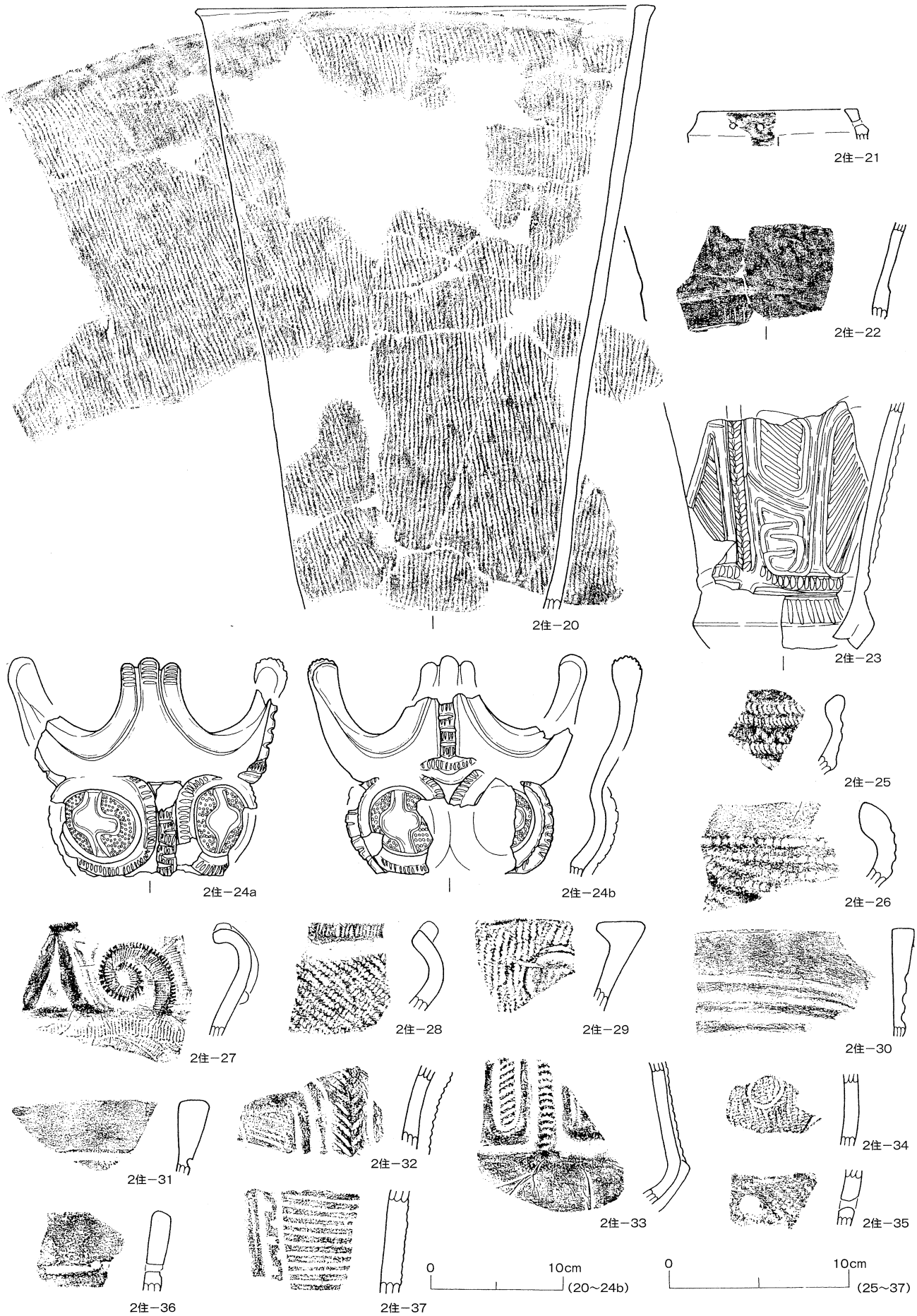
第11図　1号住居跡出土土器（2）2号住居跡出土土器（1）（S=1／4）



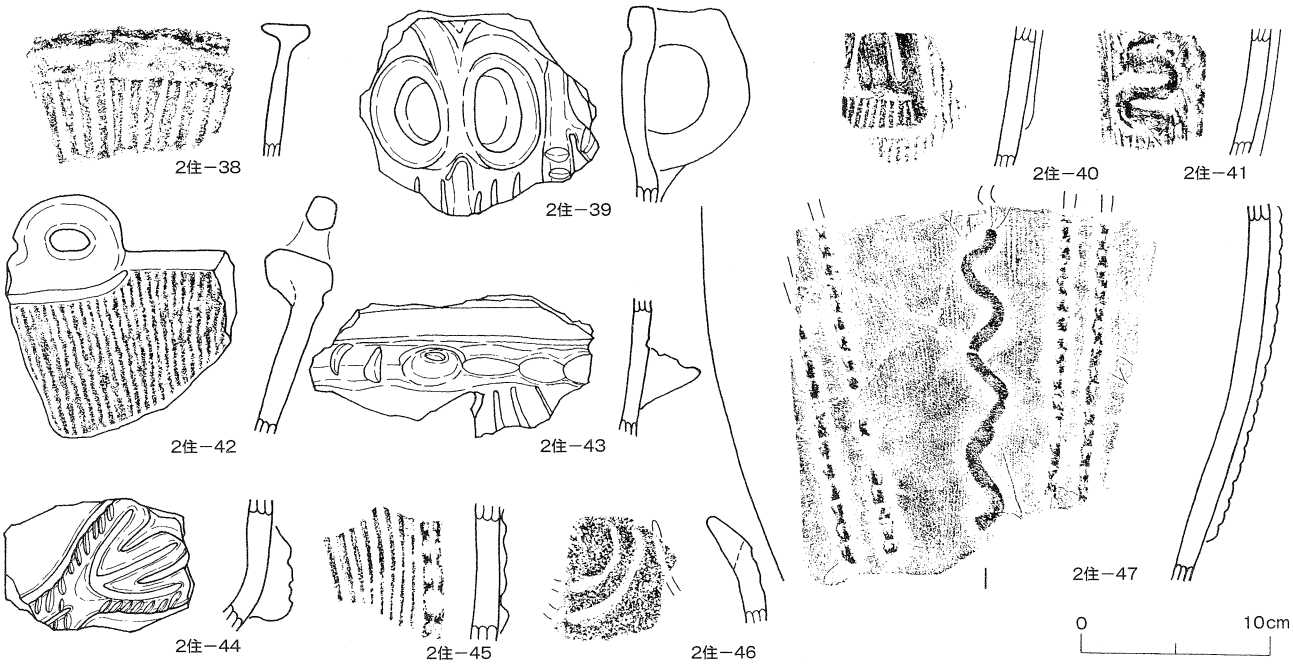
第12図　2号住居跡出土土器（2）（S=1／4）



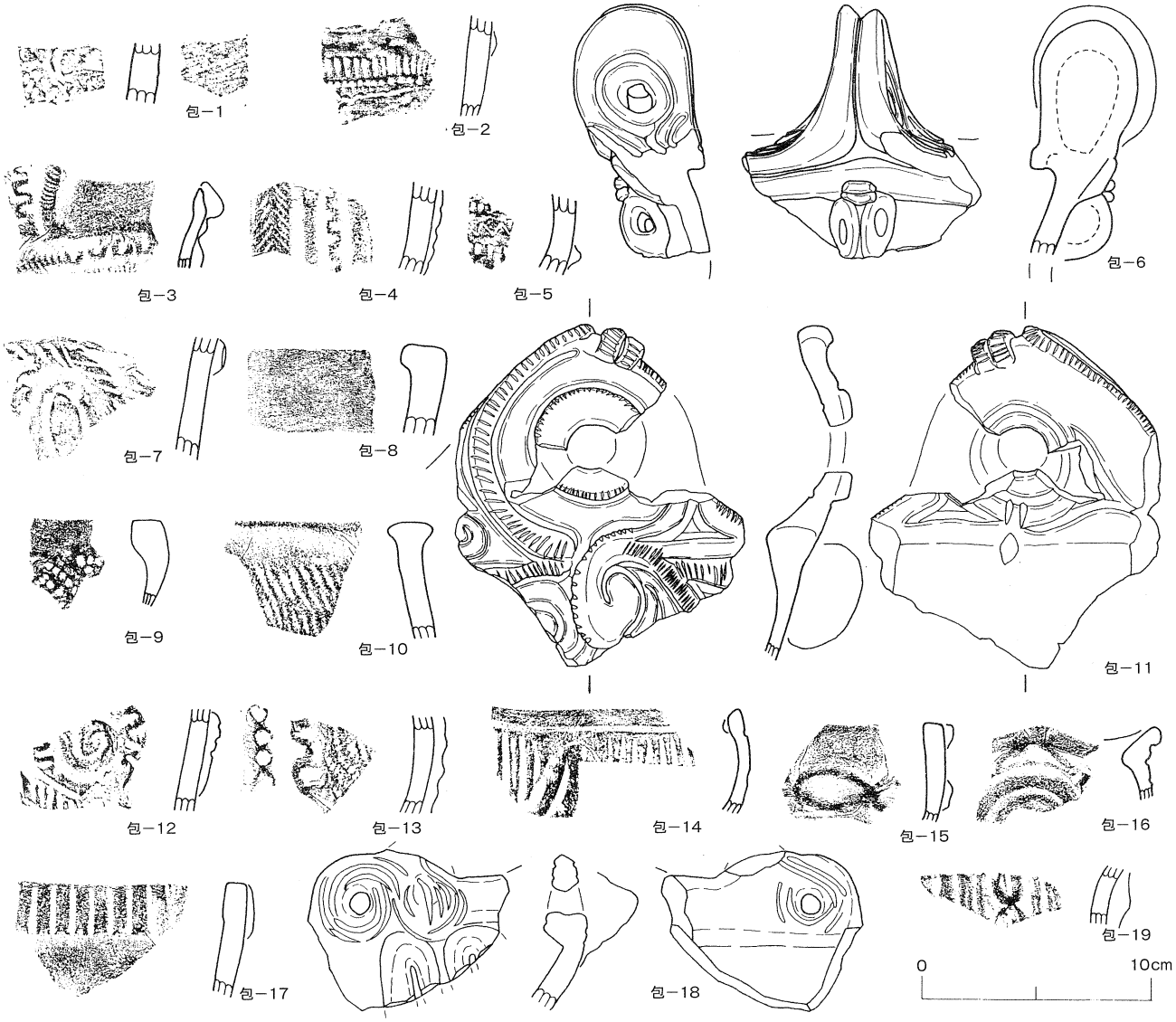
第13図　2号住居跡出土土器（3）（S=1／4）



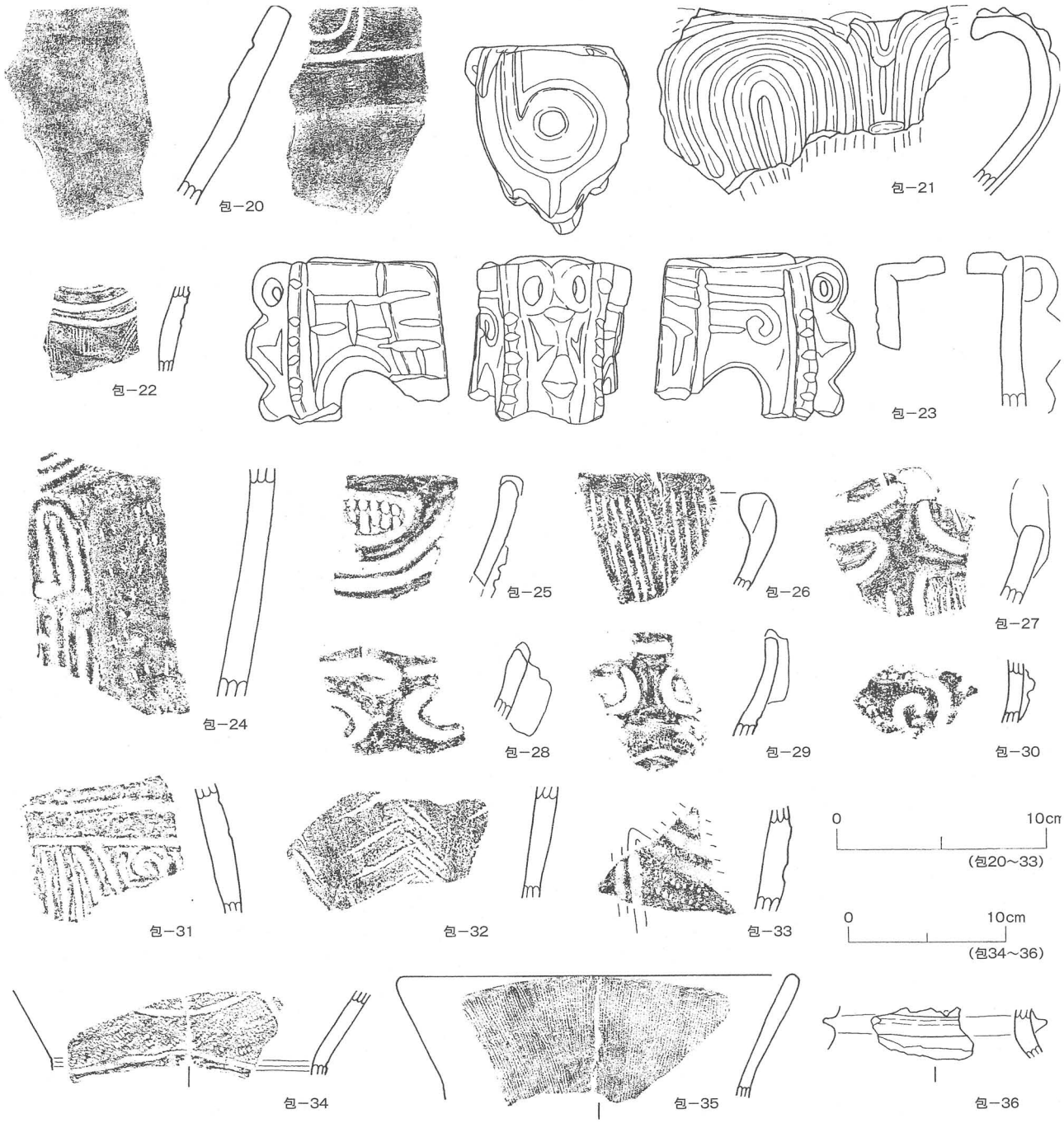
第14図　2号住居跡出土土器（4）(20~24b　S=1／4・25~37　S=1／3)



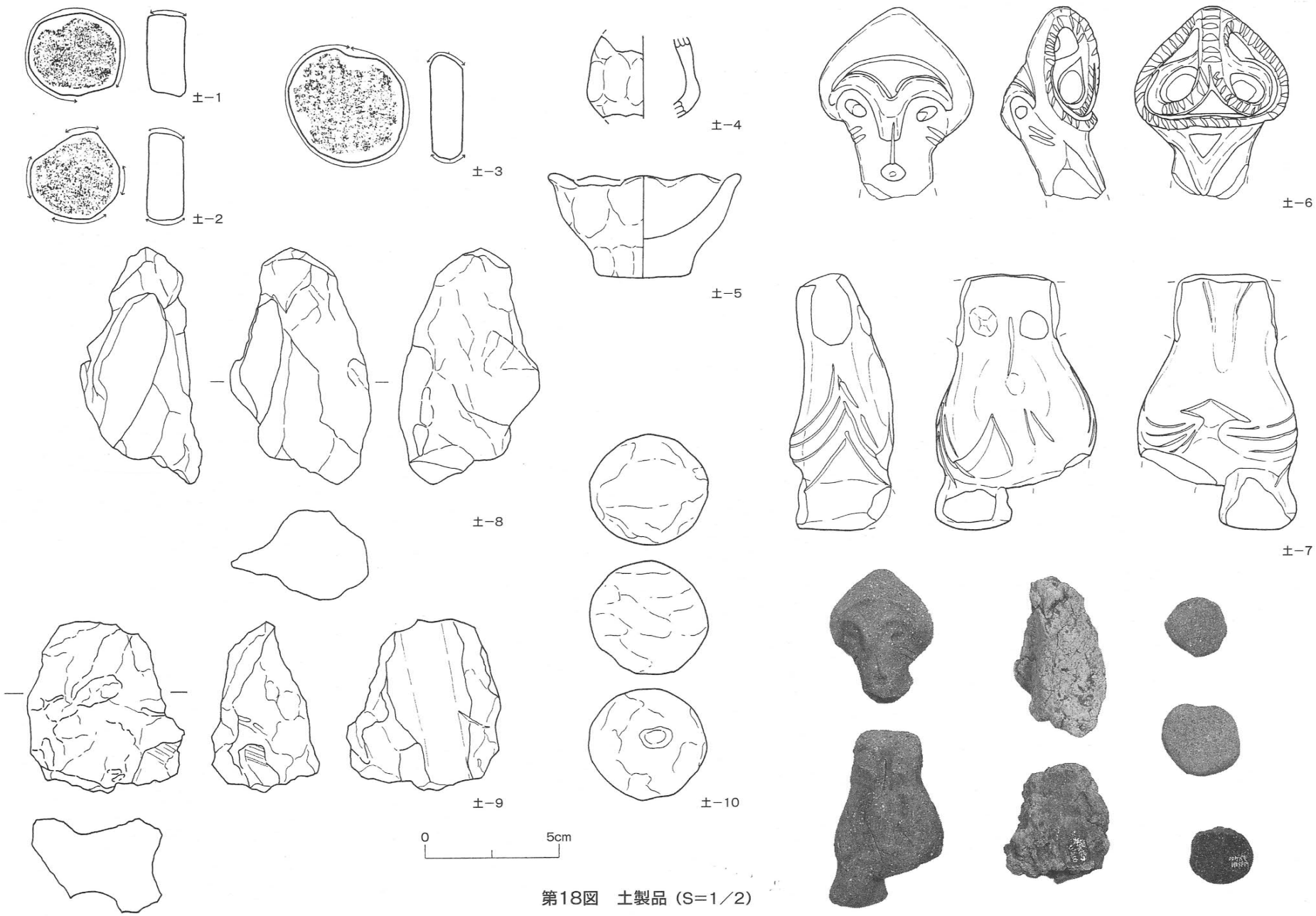
第15図　2号住居跡出土土器（5）（38～46　S=1／3・47　S=1／4）



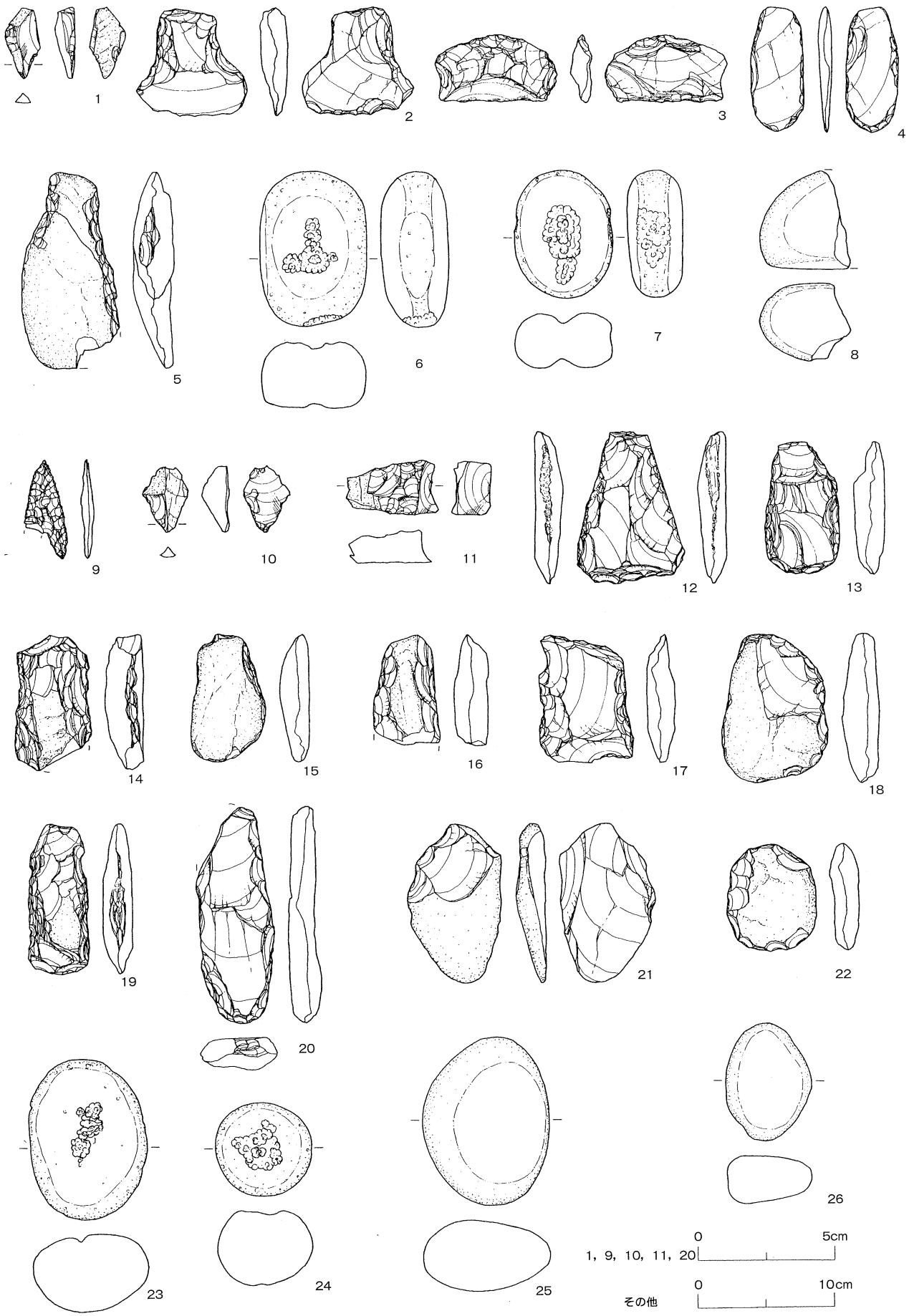
第16図　包含層等出土土器（1）（S=1／3）



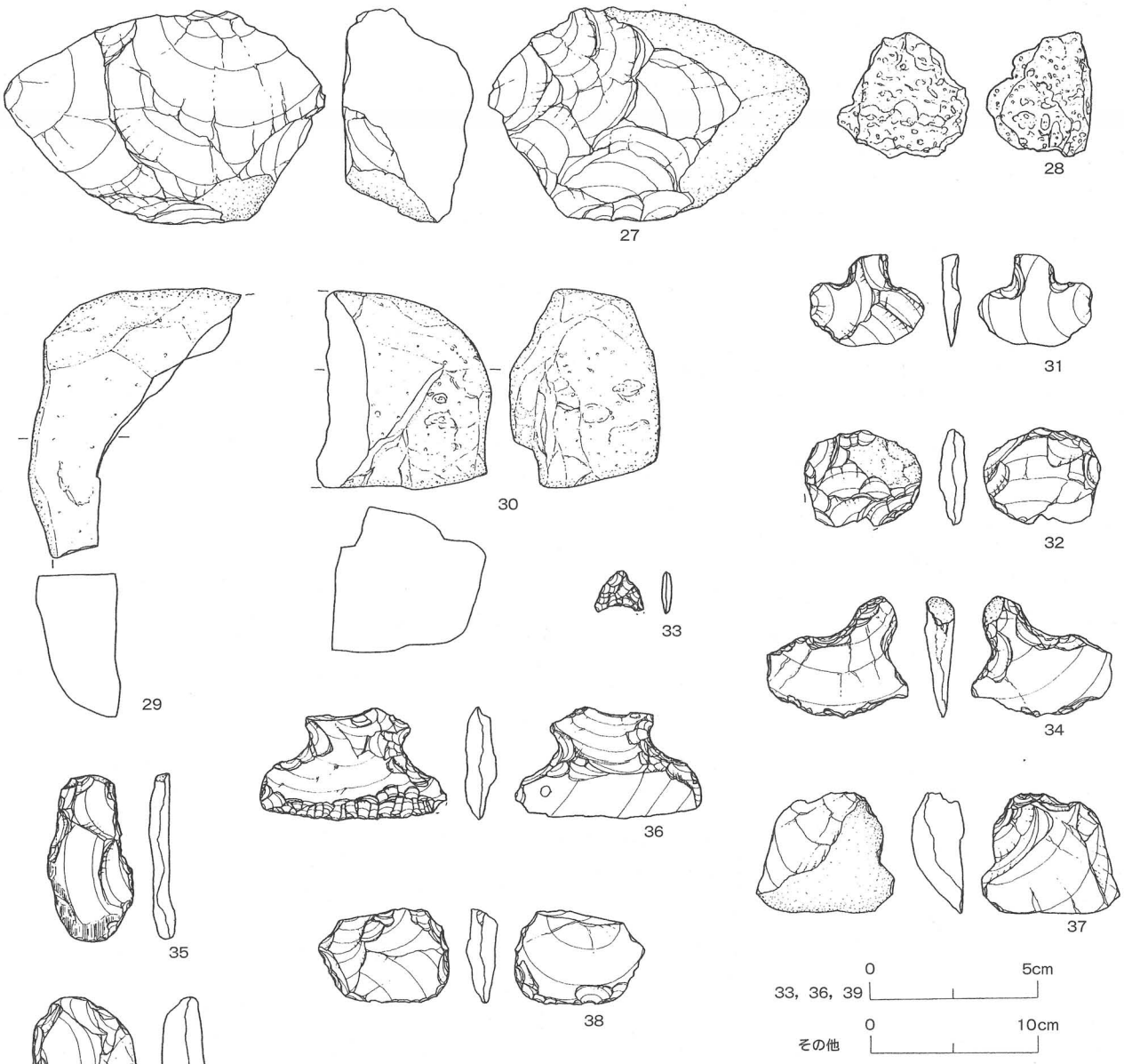
第17図　包含層等出土土器（2）（20〜33　S=1／3・34〜36　S=1／4）



第18図　土製品（S=1／2）



第19図　1号住居跡（1～8）　2号住居跡（9～26）出土石器



第20図　2号住居跡（27～30）　土坑（31・32）　グリッド・表採（33～40）出土石器

図版No.	注記No.	器形	部位	重量	時期	色調(内)	色調(外)	胎土	特徴
1住－01	1住	埋甕	胴部～底部	197	曽利後半	にぶい褐色	にぶい褐色	白･金色･黒･赤色粒子	沈線→櫛歯状工具による条線･底部網代痕
1住－02	1住･D-2-3G	深鉢	口縁部～胴部	960	曽利後半	にぶい黄褐色	にぶい褐色	白･乳白･黒色粒子	貼付隆線･沈線･半竹内皮による条線
1住－03	1住･炉	深鉢	口縁部	320	曽利後半	明赤褐色	橙色	黒･白･赤･黒光･乳白･金色粒子	口縁横撫で･頸部縦撫で･注ぎ口有
1住－04	1住	深鉢	頸部	114	勝坂後半	にぶい黄褐色	褐色	黒･白･赤色粒子	隆線→撫で･半竹内皮による沈線
1住－05	1住	深鉢	胴部	47	勝坂後半	にぶい黄褐色	暗灰黄色	黒･白･赤色粒子	隆線･沈線
1住－06	1住	深鉢	胴部	39	勝坂後半	にぶい黄褐色	灰黄褐色	黒･白･赤色粒子	隆線→刻み→沈線･縄文
1住－07	1住	深鉢	胴部	246	勝坂後半	橙色	にぶい褐色	黒･赤･白色粒子	隆線→刻み･沈線
1住－08	1住	深鉢	口縁部	139	勝坂後半	にぶい黄褐色	黒褐色	黒･白･赤色粒子	隆線･貼付文
1住－09	1住	深鉢	胴部	48	勝坂後半	にぶい褐色	褐色	白･黒･赤色粒子	隆線→刻み･半竹内皮による沈線
1住－10	1住	深鉢	胴部	71	勝坂後半	にぶい黄褐色	にぶい褐色	黒･白･乳白色粒子	隆線→撫で
1住－11	1住	深鉢	胴部	130	勝坂後半	黒褐色	にぶい黄褐色	白･黒･赤色粒子	隆線→刻み
1住－12	1住	深鉢	胴部	115	曽利前半	にぶい橙色	にぶい褐色	白･黒･赤色粒子	半竹内皮による隆線→貼付文･列点文
1住－13	1住	深鉢	胴部	37	曽利前半	にぶい黄褐色	黒褐色	白･乳白･赤･黒色粒子	半竹内皮による沈線･刺突文
1住－14	1住	深鉢	胴部	40	曽利前半	にぶい褐色	明赤褐色	黒･白･乳白･赤色粒子	半竹内皮による沈線･貼付隆線→刺突
1住－15	1住	深鉢	胴部	72	曽利前半	灰黄褐色	にぶい赤褐色	白色粒子	隆線→刻み
1住－16	1住	深鉢	口縁部	135	曽利前半	にぶい橙色	にぶい橙色	黒･白･赤色粒子	半竹内皮による隆線
1住－17	1住	深鉢	口縁部	104	曽利前半	橙色	にぶい赤褐色	白乳白･金色･黒･赤色粒子	半竹内皮による隆線･貼付文
1住－18	1住	深鉢	胴部	59	曽利前半	灰黄褐色	にぶい黄褐色	白･黒･赤色粒子	多条結節縄文
1住－19	1住	深鉢	胴部	72	曽利前半	にぶい褐色	にぶい橙色	白･黒･赤色粒子	多条結節縄文
1住－20	1住	深鉢	頸部	31	曽利前半	にぶい褐色	にぶい褐色	白･黒･赤色粒子	横撫で→複節縄文
1住－21	1住	浅鉢	口縁部	180	勝坂後半	黒褐色	灰黄褐色	白･黒･赤色粒子	沈線
1住－22	1住	深鉢	胴部	198	勝坂後半	にぶい橙色	明黄褐色	白･黒･赤色粒子	撫で→粘土紐による隆帯→沈線
2住－01	2住　P-47	深鉢	ほぼ完形	756	勝坂後半	灰褐色	にぶい橙色	黒･赤･白色粒子	横撫で･縦撫で･磨き状撫で
2住－02	2住　P-42	深鉢	口縁部～胴部	744	勝坂後半	にぶい褐色	にぶい赤褐色	黒･白･赤色粒子	粗い磨き状横撫で･隆帯→刻み
2住－03	2住　P-7	深鉢	ほぼ完形	917	勝坂後半	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	黒･白･赤色粒子	横撫で･丁寧な磨き状撫で･縄文
2住－04	2住　P-19･21	深鉢	口縁部～胴部	3200	勝坂後半	暗褐色	黒褐色	白･黒光･金色･赤色粒子	横撫で･隆線→刻み→沈線
2住－05	2住･C-2-2G	深鉢	口縁部	112	勝坂後半	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白･乳白･黒色粒子	沈線
2住－06	2住　P-14	深鉢	口縁部～胴部	970	勝坂後半	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白･乳白･黒光･黒色粒子	隆線→刻み･沈線･隆線上指頭押圧
2住－07	2住　P-28	深鉢	口縁部～底部	330	勝坂後半	にぶい褐色	にぶい褐色	白･乳白･黒･赤色粒子	指撫で･縄文
2住－08	2住	深鉢	胴部～底部	32	勝坂後半	灰黄褐色	灰黄褐色	白･黒光･赤色粒子	隆線貼付け→刻み
2住－09	2住　P-46	深鉢	底部以外完形	2110	勝坂後半	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白･金色･黒･赤色粒子	磨き状横撫で･縄文貼付け文→刺突･半竹外皮による沈線
2住－10	2住　P-29	深鉢	ほぼ完形	3260	勝坂後半	にぶい褐色	にぶい赤褐色	白･黒･乳白･赤色粒子	撫で→縄文
2住－11	2住　P-16	深鉢	口縁部～底部	2020	勝坂後半	にぶい褐色	にぶい赤褐色	白･黒･赤･金色粒子	縄文･隆線→刻み
2住－12	2住　P-38	深鉢	口縁部	258	勝坂後半	黄褐色	にぶい黄褐色	白･赤･金色･黒光粒子	横撫で→粘土紐貼付→沈線
2住－13	2住　P-31	深鉢	底部	397	勝坂後半	黄褐色	にぶい褐色	乳白･黒･白色粒子	隆線→刻み･刺突
2住－14	2住　P-9	深鉢	胴部～底部	305	勝坂後半	にぶい黄橙色	橙色	白･乳白･黒光･赤色粒子	撫で→粘土紐貼付け→竹管外皮による沈線
2住－15	2住　P-26	深鉢	ほぼ完形	1847	勝坂後半	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白･乳白･黒･赤色粒子	隆帯→縄文→沈線･網代痕
2住－16	2住	深鉢	口縁部～胴部	523	勝坂後半	褐色	褐色	白･赤･黒･金色粒子	横撫で･端部結節
2住－17	2住	器台	台部	212	勝坂後半	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白･乳白･黒色粒子	撫で
2住－18	2住　P-41	深鉢	胴部～底部	900	勝坂後半	明黄褐色	明赤褐色	白･黒･赤･黒光粒子	撫で･粘土紐貼付け→刻み･半竹内皮による沈線
2住－19	2住　P-30･C-2-3G	浅鉢	口縁部～胴部	289	勝坂後半	明褐色	明褐色	白･黒･金色･黒光粒子	横撫で･口唇部刻み
2住－20	2住　P-36･D-1-3G	深鉢	口縁部～胴部	1817	勝坂後半	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	乳白･白･黒色粒子	口縁撫で･多条RLLL縄文
2住－21	2住	有孔土器	口縁部	10	勝坂後半	黒褐色	にぶい黄褐色	白･黒･黒光･赤色粒子	撫で→穿孔
2住－22	2住	深鉢	頸部	121	曽利後半	明黄褐色	灰褐色	金色･白･黒･赤色粒子	沈線･櫛歯状工具による条線
2住－23	2住　P-5	深鉢	胴部	320	勝坂後半	にぶい黄橙色～黒褐色	明赤褐色	白･黒･黒光･乳白･赤色粒子	撫で→粘土紐貼付け→連続刺突文→沈線
2住－24	2住　P-44	深鉢	口縁部～頸部	820	勝坂後半	明赤褐色	明赤褐色	白･黒色粒子	隆線→刻み･沈線･刺突
2住－25	2住	深鉢	口縁部	23	勝坂前半	にぶい黄橙色	にぶい赤褐色	乳白･白･黒色粒子	押引き文
2住－26	2住	深鉢	口縁部	78	勝坂前半	橙色	にぶい黄橙色	白･乳白･黒･黒光粒子	隆線→押引き
2住－27	2住	深鉢	口縁部	87	勝坂後半	にぶい褐色	にぶい褐色	白･黒光･黒色粒子	隆線貼付け→刻み･沈線
2住－28	2住	深鉢	口縁部	52	勝坂後半	にぶい黄褐色	にぶい褐色	白･乳白･黒･赤色粒子	縄文･隆線→刻み
2住－29	2住　北東柱穴	深鉢	口縁部	53	勝坂後半	にぶい褐色	にぶい橙色	白･乳白･黒色粒子	縄文→磨り消し
2住－30	2住　P-25	深鉢	口縁部	73	勝坂後半	にぶい黄褐色	灰黄褐色	白･黒色粒子	撫で→沈線
2住－31	2住　P-6	深鉢	口縁部	57	勝坂後半	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	乳白･白･黒･黒光･金色粒子	撫で→沈線
2住－32	2住	深鉢	胴部	39	勝坂後半	褐色	にぶい黄褐色	白･乳白･黒光･黒色粒子	半竹内皮による沈線･隆線→刻み
2住－33	2住	深鉢	胴部	79	勝坂後半	黒褐色	橙色	白･黒･黒光粒子	隆線→刻み･半竹内皮による沈線
2住－34	2住　P-27	深鉢	胴部	23	勝坂後半	にぶい褐色	にぶい赤褐色	白･黒･金色粒子	縄文→沈線
2住－35	2住	深鉢	胴部	23	勝坂後半	明赤褐色	明赤褐色	白･黒･黒光粒子	縄文→穿孔
2住－36	2住	深鉢	口縁部	27	勝坂後半	橙色	橙色	白･黒･赤色粒子	撫で→沈線･穿孔

第３表　土器観察表(1)

図版No.	注記No.	器形	部位	重量	時期	色調(内)	色調(外)	胎土	特徴
2住－37	2住　P-25	深鉢	胴部	58	勝坂後半	灰褐色	にぶい褐色	黒·乳白·白色粒子	沈線
2住－38	2住	深鉢	口縁部	54	勝坂後半	にぶい褐色	にぶい褐色	白·黒·黒光粒子	沈線·撫で
2住－39	2住	深鉢	口縁部	186	勝坂後半	にぶい橙色	にぶい褐色	白·乳白·黒色粒子	隆線→刻み·沈線
2住－40	2住	深鉢	胴部	35	勝坂後半	灰褐色	灰褐色	白·乳白·黒色粒子	縄文→隆帯→刻み
2住－41	2住	深鉢	胴部	36	勝坂後半	にぶい褐色	赤褐色	白·乳白·黒色粒子	隆線→刻み·沈線
2住－42	2住　P-10	深鉢	口縁部	141	勝坂後半	にぶい橙色～黒褐色	にぶい黄褐色	白·黒·黒光·金色粒子	多条縄文→沈線
2住－43	2住　P-6	深鉢	胴部	104	勝坂後半	にぶい黄橙色	にぶい橙色	白·乳白·黒·黒光粒子	隆帯貼付け→刻み→指頭押圧·沈線
2住－44	2住　P-43	深鉢	胴部	80	勝坂後半	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白·金色·黒·乳白色粒子	
2住－45	2住	深鉢	胴部	34	勝坂後半	にぶい橙色	にぶい褐色	白·黒·乳白色粒子	沈線·隆線→指頭押圧
2住－46	2住	深鉢	口縁部	23	曽利後半	灰黄褐色	にぶい黄褐色	白·乳白·金色·黒·赤色粒子	沈線·爪形文
2住－47	2住　P-1	深鉢	胴部	593	曽利前半	にぶい黄褐色	にぶい赤褐色	白·黒·乳白色粒子	隆線貼付け→刻み
包－01	C-2-2G	深鉢	胴部	15	早期	にぶい褐色	にぶい黄褐色	赤·白色粒子	縄文
包－02	C-2-3G	深鉢	胴部	44	勝坂前半	にぶい褐色	にぶい赤褐色	白·乳白·黒光粒子	隆線→半竹外皮による押引き·沈線
包－03	D-2-1G	深鉢	口縁部	39	勝坂後半	灰褐色	にぶい橙色	白·乳白·金色粒子	隆線貼付け→刻み
包－04	D-2-1G	深鉢	胴部	36	勝坂後半	橙色	褐色	乳白·白·黒色粒子	隆線→刻み
包－05	C-2-3G	深鉢	胴部	14	勝坂前半	にぶい黄褐色	明赤褐色	白·黒·黒光·金色粒子	
包－06	C-2-4G	深鉢	口縁部	260	勝坂後半	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	白·金色·黒·赤色粒子	撫で→隆帯文→沈線
包－07	C-2-2G	深鉢	胴部	37	勝坂後半	灰黄褐色	にぶい褐色	黒·白色粒子	隆線→刻み
包－08	D-2-1G	深鉢	口縁部	52	勝坂後半	明褐色	にぶい黄褐色	白·黒·乳白·金色粒子	撫で
包－09	D-3-1G	深鉢	口縁部	19	勝坂前半	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白·乳白·黒·黒光粒子	隆線→押引き文
包－10	C-2-2G	深鉢	口縁部	38	勝坂後半	にぶい黄橙色	にぶい褐色	黒·乳白·白色粒子	口縁－撫で·胴部－縄文
包－11	C-2-1G	深鉢	口縁部	295	勝坂後半	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白·黒·金色·赤色粒子	内-撫で→沈線　外-隆帯上刻み→沈線
包－12	C-1-4G	深鉢	胴部	31	勝坂後半	にぶい黄褐色	にぶい褐色	白色粒子	隆線→刻み→沈線
包－13	C-2-2G	深鉢	胴部	23	勝坂後半	褐色	にぶい褐色	白·乳白色粒子	隆線→刻み·縄文
包－14	C-1-4G	深鉢	口縁部	41	勝坂後半	黒褐色	にぶい褐色	白·黒·乳白·金色粒子	沈線
包－15	D-2-1G	浅鉢	口縁部	31	勝坂後半	明褐色	明褐色	黒·白·乳白色粒子	隆帯貼付け→指頭押圧
包－16	C-1-4G	深鉢	口縁部	22	勝坂後半	褐色	褐色	白色粒子	沈線
包－17	C-1-3G	深鉢	口縁部	48	勝坂後半	黒褐色	にぶい赤褐色	白色粒子	隆帯貼付け→刻み
包－18	D-2-3G	深鉢	口縁部	118	勝坂前半	にぶい褐色	にぶい褐色	黒·白·赤·金色粒子	隆線貼付け→沈線
包－19	C-1-4G	深鉢	胴部	16	勝坂後半	にぶい褐色	灰褐色	白·乳白·黒·黒光粒子	隆線·沈線
包－20	C-2-2G	浅鉢	口縁部	121	勝坂後半	にぶい褐色	にぶい黄褐色	白·黒·黒光·金色粒子	撫で→沈線
包－21	C-2G	深鉢	口縁部	193	曽利前半	にぶい橙色	にぶい褐色	白·黒色粒子	隆線貼付け
包－22	C-2-4G	深鉢	胴部	21	曽利後半	黒色	にぶい赤褐色	白·赤·黒色粒子	縄文→沈線
包－23	D-3-1G	深鉢	口縁部	298	勝坂後半	にぶい褐色	にぶい褐色	白·黒·赤·乳白色粒子	貼付け隆線→刻み·沈線
包－24	D-2-3G	深鉢	胴部	155	曽利前半	にぶい褐色	褐色	黒·赤·白色粒子	列点文·半竹内皮による隆線
包－25	C-2-4G	深鉢	口縁部	45	曽利後半	にぶい褐色	褐色	黒·白·赤色粒子	隆線→沈線→刺突
包－26	D-2-3G	深鉢	口縁部	46	曽利前半	にぶい橙色	にぶい赤褐色	黒·赤·白色粒子	半竹内皮による条線
包－27	D-2-3G	深鉢	口縁部	55	曽利後半	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白·黒·赤·黒光粒子	隆線→沈線→はけ目
包－28	C-2-4G	深鉢	口縁部	52	曽利後半	にぶい褐色	褐色	白·黒·赤色粒子	貼付け→沈線
包－29	C-2-4G	深鉢	口縁部	32	曽利後半	灰黄褐色	にぶい黄褐色	白·赤·黒·金色粒子	隆線→沈線→はけ目
包－30	C-2-4G	深鉢	頚部	21	曽利後半	褐色	にぶい黄褐色	白·黒·赤色粒子	隆線→刺突
包－31	2住	深鉢	胴部	68	堀之内	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白·乳白·赤色粒子	沈線
包－32	C-2-1G	深鉢	胴部	63	曽利後半	にぶい黄橙色	にぶい黄褐色	白·黒·金色·赤色粒子	ハの字文
包－33	D-2-1G	深鉢	胴部	39	曽利後半	黄褐色	暗灰黄色	白·金色·黒·赤色粒子	刺突→沈線
包－34	D-2-1G	深鉢	頚部	117	曽利前半	灰褐色	褐色	黒光·白·黒色粒子	縄文→沈線
包－35	D-2-1G	深鉢	口縁部	157	曽利前半	にぶい褐色	にぶい赤褐色	白·乳白·黒色粒子	櫛歯状工具による条線
包－36	C-2-4G	有孔鍔付土器	胴部	41	勝坂後半	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	白·黒色粒子	撫で·穿孔
土－01	1住炉内	土製円盤		18		灰黄褐色	黒褐色	白·乳白·赤·黒色粒子	
土－02	D-2-1G	土製円盤		17		にぶい褐色	にぶい黄褐色	黒·白·赤色粒子	
土－03	2住	土製円盤		26		にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	黒·赤·乳白·白色粒子	縄文
土－04	1住	ミニチュア		8	曽利後半	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白·黒色粒子	指頭圧痕
土－05	1住	ミニチュア		69	曽利後半	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	白·黒色粒子	指頭圧痕
土－06	2住	土偶	頭部	80	勝坂後半	にぶい赤褐色		白·黒·黒光·赤色粒子	
土－07	2住	土偶	胴部～足	162	勝坂後半	灰黄褐色		白·黒·金色·黒光·赤色粒子	沈線文
土－08	2住	焼成粘土塊		105		にぶい黄褐色		白·赤·黒色粒子	表面に細かいヒビが多く見られる。キメは粗く、一部層状になっている部分もある。筒状のものが触れた痕跡がある。
土－09	C-2-2G	焼成粘土塊		104		にぶい褐色		白·黒色粒子	キメは粗く、ブロックの集合体のようにも見える。筒状及び板状のものが触れていた痕跡がある。
土－10	2住	土鈴		56	縄文中期	にぶい赤褐色		白·黒·金·黒光·赤色粒子	撫で

第４表　土器観察表(2)

図版No.	実測No.	遺構名	遺構No.	石　材	器　　種	刃部加工	整形加工	成形加工	素材技術	素材形態	所　　見	長さ mm	厚さ mm	幅 mm
3	3	1住		安山岩	削器	HD	HD	HD	不明	横長剥片	刃部及び縁辺摩耗顕著	48.8	15.3	91.1
2	2	1住		安山岩	削器	HD	HD	HD	HD	剥片		79.7	82.3	20.7
5	5	1住	S-1	ホルンフェルス	打製石斧	なし	HD・HvD	HD	HD	横長剥片	被熱資料	145.4	72.7	31.5
4	4	1住		安山岩	打製石斧	HD	HD	なし	不明	剥片		92.7	39.6	10.3
1	1	1住		黒曜石	石錐	なし	HP	なし	不明	剥片	先端部に押圧剥離痕。	26.7	13.7	7.7
8	9	1住炉内		砂岩	磨石	なし	なし	なし	適用外	礫	平坦な磨り面。	72.4	67.3	57.6
7	7	1住南西柱穴		砂岩	敲石	なし	なし	なし	適用外	礫	表・裏に磨り面。表・裏に敲き痕。	94.3	74.0	42.0
6	6	1住	S-2	安山岩	磨石+敲石	なし	なし	なし	適用外	礫	表・側・裏に磨り面。表・裏に敲き痕。	115.0	78.8	50.8
9	10	2住		黒曜石	凹基石鏃	SP	SP	なし	不明	剥片	剥離開始部はコーン・曲げタイプ。	36.6	16.2	5.0
10	16	2住		黒曜石	石錐	HP	HP	なし	不明	剥片	先端部に押圧剥離痕。	24.6	17.2	10.4
11	19	2住		黒曜石	間接打撃石核	なし	なし	なし	不明	剥片	上・下の平坦な面を打面とする。	20.4	34.3	15.2
22	35	2住	S-4	礫岩	円盤形石器	HD	HD	なし	不明	剥片		79.7	66.5	22.2
21	31	2住		ホルンフェルス	打製石斧素材	なし	なし	HD	不明	横長剥片		118.6	70.8	22.2
15	23	2住	S-5	ホルンフェルス	打製石斧未製品	不明	HD	HD	不明	剥片		95.3	56.7	22.4
18	26	2住	S-2	砂岩	打製石斧未製品	HD	HD	HD	不明	剥片		112.4	79.4	27.8
16	24	2住		ホルンフェルス	打製石斧	不明	HD	HD	不明	剥片	刃部折れ	82.6	49.9	25.7
13	21	2住	S-8	ホルンフェルス	打製石斧	HD	HD・HvD	HD	HvD	剥片		98.1	55.8	23.4
19	27	2住	S-2	ホルンフェルス	打製石斧	HD	HvD	HvD	不明	剥片		111.9	45.3	22.6
14	22	2住	S-7	ホルンフェルス	打製石斧	不明	HvD	HvD	HvD	剥片	基部頂部折れをきる加工あり。	100.3	57.2	29.1
12	20	2住	S-12	ホルンフェルス	打製石斧	HD	HD/刃潰し	HD	HvD	剥片		112.5	79.5	21.7
17	25	2住		ホルンフェルス	打製石斧	HD	HD	HD	不明	剥片		95.8	69.8	21.1
20	28	2住		緑色片岩	打製石斧	HD	HD・HvD	なし	不明	剥片		80.5	28.9	12.2
25	40	2住		砂岩	磨石	なし	なし	なし	適用外	礫		124.3	94.8	54.0
26	41	2住		砂岩	磨石	なし	なし	なし	適用外	礫		86.8	64.1	37.2
23	42	2住	S-3,S-13	砂岩	凹石	なし	なし	なし	適用外	礫		119.1	88.3	57.9
24	39	2住		砂岩	敲石	なし	なし	なし	適用外	礫		69.0	71.3	56.5
30	38	2住	S-14	砂岩	炉石	なし	なし	なし	適用外	礫		118.0	104.6	91.6
29	36	2住	S-11		大形石皿断片	なし	なし	なし	適用外	礫		159.1	128.6	98.4
28	43	2住一括		溶岩	溶岩	なし	なし	なし	適用外	溶岩		74.3	78.8	63.6
27	37	2住	S-6	礫岩	石核	なし	なし	なし	不明	剥片	HDで剥片剥離する。	127.9	191.9	77.4
32	58	2号土坑		ホルンフェルス	削器	HD	HD	HD	不明	剥片		58.1	70.0	16.2
31	57	3号土坑		安山岩	横形石匙	素刃	HD	なし	HD	縦長剥片		54.8	68.8	11.4
33	45	D-2-3		黒曜石	凹基石鏃	SP	SP	なし	不明	剥片		12.9	15.4	3.4
36	46	D-2-1		黒曜石	横形石匙	SP	SP	なし	不明	横長剥片	刃部に使用痕あり。	33.4	56.5	9.9
41	52	D-2-3		ホルンフェルス	打製石斧未製品	HD	HD	HD	不明	横長剥片		112.1	56.2	13.3
40	55	表採		ホルンフェルス	打製石斧	HD	HD	HD	HD	横長剥片		83.2	59.7	16.4
34	49	C-2-1		ホルンフェルス	横形石匙	HD	HD	HD	HD	横長剥片		72.0	84.4	17.5
38	50	?-2-3		ホルンフェルス	削器	HD	HD	なし	HD	横長剥片		56.6	78.2	18.7
39	53	D-2-3		ホルンフェルス	打製石斧	HD・HvD	HvD	HvD	不明	剥片		58.8	36.5	15.7
37	51	?-2-4			削器	なし	HD	HD	不明	剥片		72.2	83.0	31.4
35	47	C-2-4		ホルンフェルス	打製石斧	HD	HD	HD	不明	剥片	刃部が摩耗している。	99.1	52.0	14.3
	8	1住			レキ						実測図無			
	11	2住		黒曜石	間接打撃剥片						実測図無			
	12	2住		黒曜石	剥片						実測図無			
	13	2住		黒曜石	小形両極石器断片						実測図無			
	14	2住		黒曜石	間接打撃剥片						実測図無			
	15	2住		黒曜石	間接打撃剥片						実測図無			
	17	2住		黒曜石	小形原石						実測図無			
	18	2住		黒曜石	小形原石						実測図無			
	29	2住			剥片						実測図無			
	30	2住		〃	削器断片						実測図無			
	32	2住			打製石斧断片						実測図無			
	33	2住			打製石斧断片						実測図無			
	34	2住			打製石斧断片						実測図無			
	44	2住	2住一括	溶岩	溶岩						実測図無			
	48				石匙						実測図無			
	54				打製石斧						実測図無			
	56				小楕円礫						実測図無			

第５表　石器観察表

報告書抄録

ふりがな	げばきいせき
書名	下馬城遺跡
副書名	個人住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書
編集者名	閏間俊明
編集機関	韮崎市教育委員会
発行機関	韮崎市教育委員会
住所	〒407-8501　山梨県韮崎市水神1-3-1
発行年月日	2003(平成15)年3月24日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
げばきいせき	にらさきしおおくさちょうしもじょうなかわりあざげばき	19207	K64	35°40′38″	138°27′27″	屋外 2001年4月 整理 2002年11月～2003年3月	98m²	個人住宅建設
下馬城遺跡	韮崎市大草町下条中割字下馬城							
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡		縄文土器・土鈴・土偶			

下馬城遺跡

発行日　平成15(2003)年3月24日

発行　韮崎市教育委員会
〒407-8501
山梨県韮崎市水神1－3－1
TEL 0551-22-1111(内224)

印刷　有限会社 タクト